

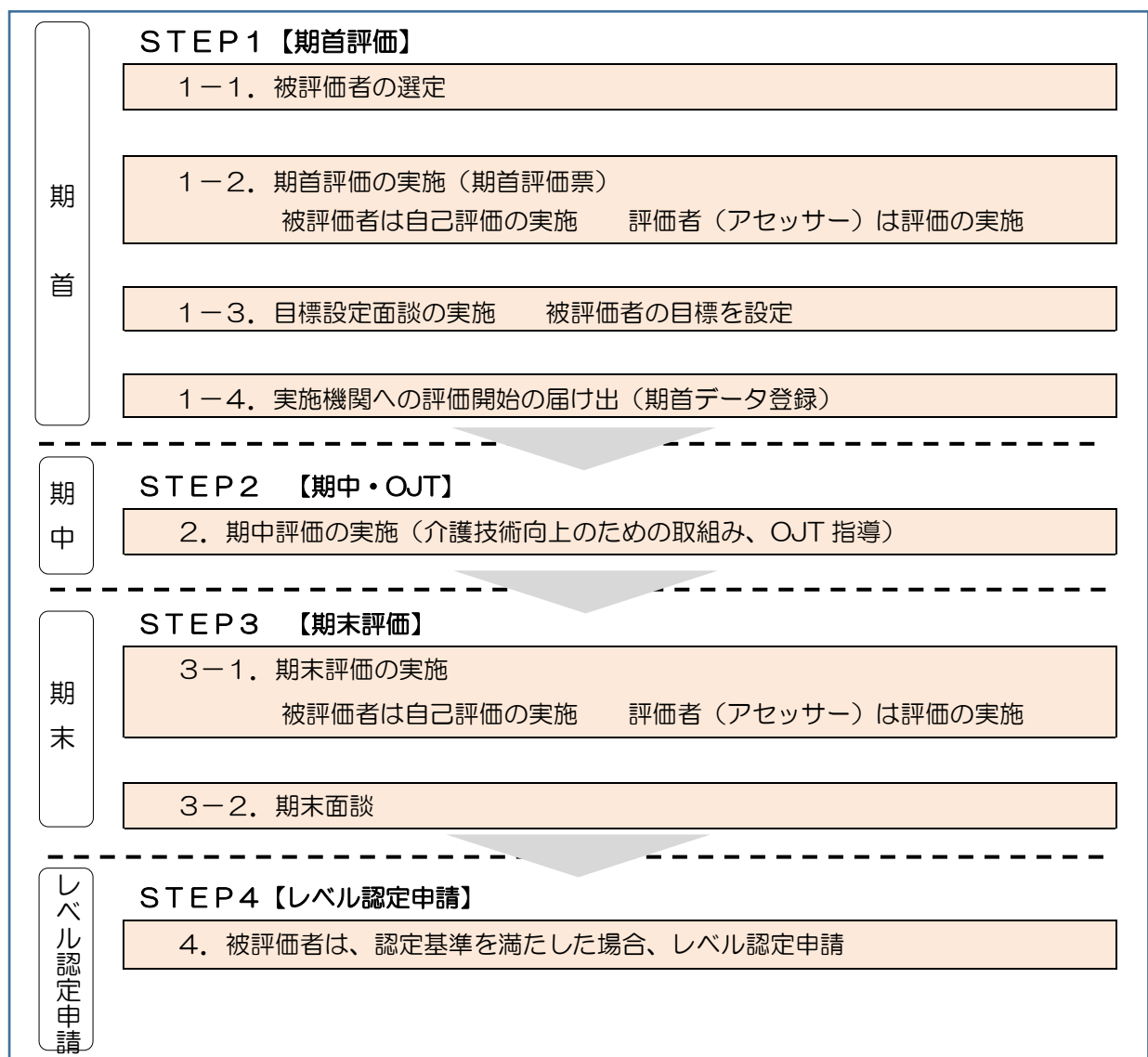
第3章

OJT を通じた人材育成マネジメント 標準化に向けた支援方策の提案

(1)データ分析概要

介護キャリア段位制度における OJT を通じた人材育成ワークフローは以下のとおりとなっており、「STEP 1：期首評価」の段階で、日頃のケアの状況の振り返りによる実践スキルのアセッサー評価が実施される。その評価の際に見出された「できていない」実践スキルを、ある一定期間において「できる」ようになるよう OJT 計画を策定し、「STEP 2：OJT」を実施。ある一定期間経過の後、実践スキルの定着が図られているか再度「STEP 3：期末評価」として実践スキルの評価を行うこととしている。

■内部評価方法



出典：介護キャリア段位制度ホームページ

なお、期首評価で使用する評価票は次の通りとなっており、この評価票を用いて対象となる介護職員の実践スキルレベルに応じて、該当する評価項目を選択し、日頃のケアの状況を振り返り実践スキルの評価を実施することとなっている。

期首評価票

I. 基本介護技術の評価					目標レベル					
中項目	No	小項目	小項目評価							
			自己評価	評価者評価						
1 入浴介助	1	入浴前の確認ができる			レベル 2 ①	レベル 3	レベル 4			
	2	衣服の着脱ができる								
	3	洗体ができる(浴槽に入ることを含む。)								
	4	清拭ができる								
2 食事介助	1	食事前の準備を行うことができる								
	2	食事介助ができる								
	3	口腔ケアができる								
3 排泄介助	1	排泄の準備を行うことができる								
	2	トイレ(ポータブルトイレ)での排泄介助ができる								
	3	おむつ交換を行うことができる								
4 移乗・移動・体位変換	1	起居の介助ができる						レベル 2 ②	レベル 3	レベル 4
	2	一部介助が必要な利用者の車いすへの移乗ができる								
	3	全介助が必要な利用者の車いすへの移乗ができる								
	4	杖歩行の介助ができる								
	5	体位変換ができる								
5 状況の変化に応じた対応	1	咳やむせこみに対応ができる								
	2	便・尿の異常(血便・血尿、バイタル、ショック状態など)に対応ができる								
	3	皮膚の異常(炎症、表皮剥離、水泡、潰瘍等)に対応ができる								
	4	認知症の方がいつもと違う行動(攻撃的行動、突発的行動、対応が困難な行動等)を行った場合に対応ができる								

II. 利用者視点での評価					目標レベル		
中項目	No	小項目	小項目評価				
			自己評価	評価者評価			
1 利用者・家族とのコミュニケーション	1	相談・苦情対応ができる			2②		
	2	利用者特性に応じたコミュニケーションができる					
2 介護過程の展開	1	利用者に関する情報を収集できる			2②	レベル 3	レベル 4
	2	個別介護計画を立案できる					
	3	個別介護計画に基づく支援の実践・モニタリングができる					
	4	個別介護計画の評価ができる					
3 感染症対策・衛生管理	1	感染症予防対策ができる					
	2	感染症発生時に対応できる					
4 事故発生防止	1	ヒヤリハットの視点を持っている					
	2	事故発生時の対応ができる					
	3	事故報告書を作成できる					
5 身体拘束廃止	1	身体拘束廃止に向けた対応ができる					
	2	身体拘束を行わざるを得ない場合の手続きができる					
6 終末期ケア	1	終末期の利用者や家族の状況を把握できる					
	2	終末期に医療機関または医療職との連携ができる					

III. 地域包括ケアシステム&リーダーシップ					目標レベル		
中項目	No	小項目	小項目評価				
			自己評価	評価者評価			
1 地域包括ケアシステム	1	地域内の社会資源との情報共有					レベル 4
	2	地域内の社会資源との業務協力					
	3	地域内の関係職種との交流					
	4	地域包括ケアシステムの管理業務					
2 リーダーシップ	1	現場で適切な技術指導ができる					
	2	部下の業務支援を適切に行っている					
	3	評価者として適切に評価できる					

出典：介護キャリア段位制度ホームページ

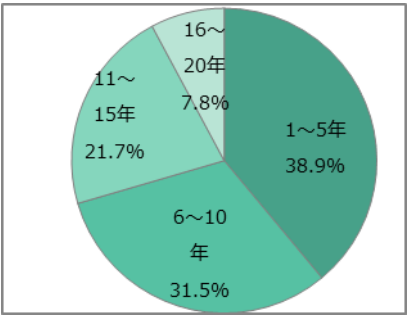
今回のデータ分析については、アセッサーによる期首評価の評価結果をもとに、介護職員の属性データ等をクロス集計し、介護の実践の場における実践スキルの評価項目の有効性とともに、効果的・効率的な評価の実施に向けた支援策の考察のための基礎資料とするために行った。

(2)データ分析結果

【属性情報】

■ 全体 期首評価対象職員数

介護職員としての経験年数と期首評価を行った介護職員数について、全体 8,910 名に対する割合として 1 年～5 年が 38.9%、6 年～10 年が 31.5%、11 年～15 年が 21.7%、16 年～20 年が 7.8%となっている。なお、データ分析に当たり 21 年以降の介護職員については本分析から除外した。

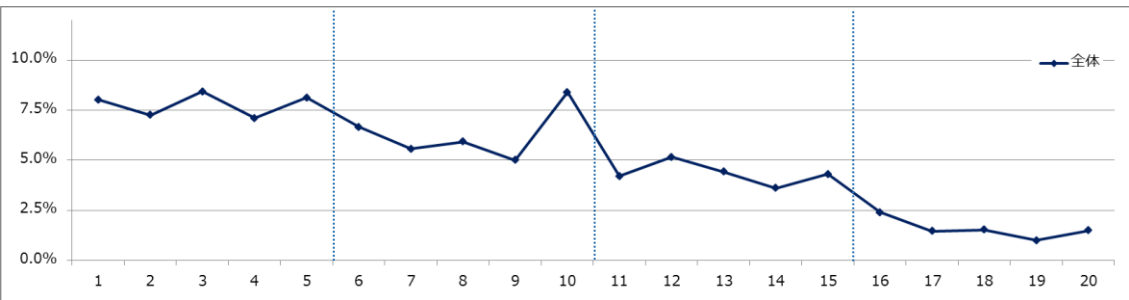


○ 介護職員としての経験年数と対象職員数

(全体：n=8,910)

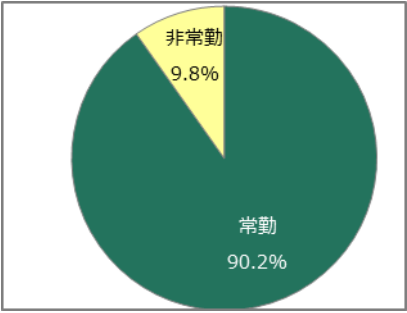
経験年数 (年)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
対象人数 (人)	715	647	751	633	724	593	496	527	445	748	375	459	394	321	384	213	129	135	89	132
割合 (%)	8.0%	7.3%	8.4%	7.1%	8.1%	6.7%	5.6%	5.9%	5.0%	8.4%	4.2%	5.2%	4.4%	3.6%	4.3%	2.4%	1.4%	1.5%	1.0%	1.5%

※ 割合 (%) : 全体 9,8910 人に対する対象職員数の割合



■ 勤務形態別 期首評価対象職員数

期首評価を行った介護職員数の勤務形態内訳として常勤が 8,040 人、非常勤が 870 人となっており、それぞれ割合として常勤 90.2%、非常勤 9.8%と、約 9 対 1 の割合となっている。また、非常勤職員に対する期首評価として 1 年～5 年の職員に対して実施している割合が高くなる一方で、11 年～15 年の職員に対する期首評価の実施割合が低くなっている。

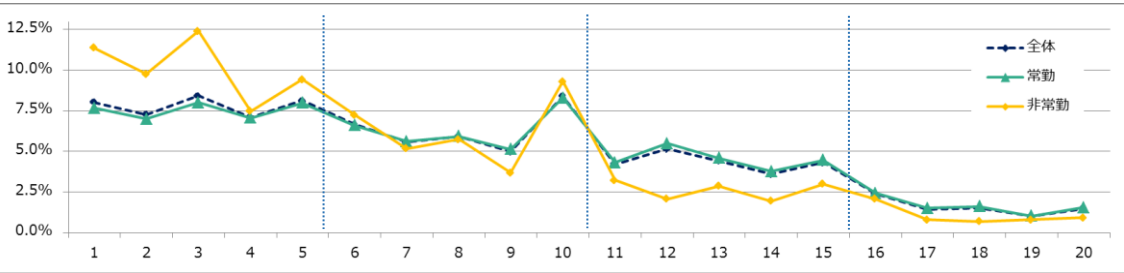


○ 勤務形態別 経験年数対象職員数

(常勤全体：n=8,040) (非常勤全体：n=870)

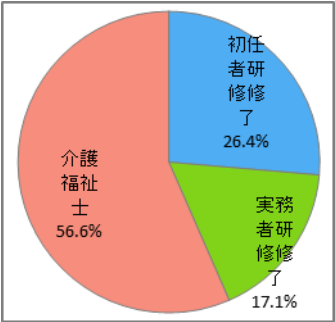
経験年数 (年)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
常勤 (人)	616	562	643	568	642	530	451	477	413	667	347	441	369	304	358	195	122	129	82	124
割合 (%)	7.7%	7.0%	8.0%	7.1%	8.0%	6.6%	5.6%	5.9%	5.1%	8.3%	4.3%	5.5%	4.6%	3.8%	4.5%	2.4%	1.5%	1.6%	1.0%	1.5%
非常勤 (人)	99	85	108	65	82	63	45	50	32	81	28	18	25	17	26	18	7	6	7	8
割合 (%)	11.4%	9.8%	12.4%	7.5%	9.4%	7.2%	5.2%	5.7%	3.7%	9.3%	3.2%	2.1%	2.9%	2.0%	3.0%	2.1%	0.8%	0.7%	0.8%	0.9%

※ 割合 (%) : 常勤全体 8,040 人または非常勤全体 870 人に対する対象職員数の割合



■ 取得資格別 期首評価対象職員数

期首評価を行った介護職員数の取得資格内訳として初任者研修修了者が 2,349 人、実務者研修修了者が 1,522 人、介護福祉士が 5,039 人となっており、それぞれ割合として初任者研修修了者 26.4%、実務者研修修了者 17.1%、介護福祉士 56.6%となっている。また、初任者研修修了職員に対する期首評価として1年～3年の職員に対して実施している割合が高く、実務者研修修了職員では3年～4年の職員に対する期首評価、介護福祉士職員では6年～15年の職員に対する期首評価の実施割合が高くなっている。

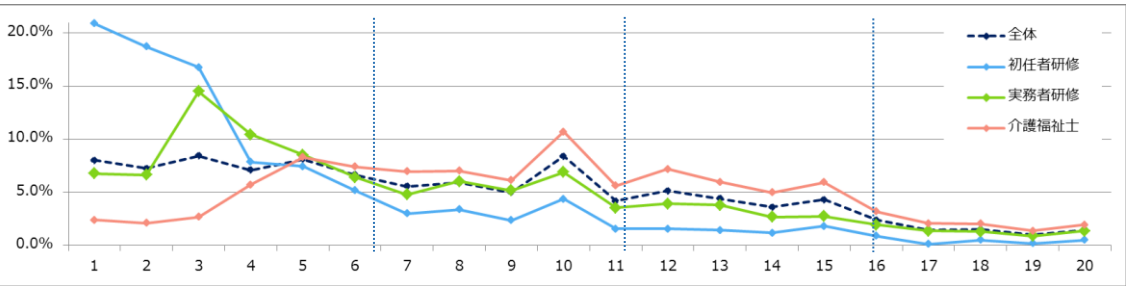


○ 取得資格別 経験年数対象職員数

(初任者研修修了者全体 : n=2,349) (実務者研修修了者全体 : n=1,522) (介護福祉士全体 : n=5,039)

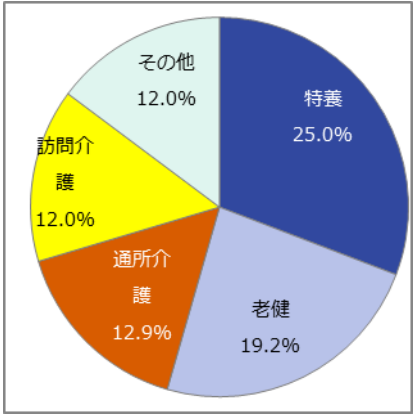
経験年数 (年)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
初任者研修	491	440	394	185	175	122	71	80	56	103	37	37	34	28	43	21	3	12	5	12
割合 (%)	20.9%	18.7%	16.8%	7.9%	7.4%	5.2%	3.0%	3.4%	2.4%	4.4%	1.6%	1.6%	1.4%	1.2%	1.8%	0.9%	0.1%	0.5%	0.2%	0.5%
実務者研修	103	101	221	159	130	98	73	92	79	105	54	60	58	41	42	30	21	20	14	21
割合 (%)	6.8%	6.6%	14.5%	10.4%	8.5%	6.4%	4.8%	6.0%	5.2%	6.9%	3.5%	3.9%	3.8%	2.7%	2.8%	2.0%	1.4%	1.3%	0.9%	1.4%
介護福祉士	121	106	136	289	419	373	352	355	310	540	284	362	302	252	299	162	105	103	70	99
割合 (%)	2.4%	2.1%	2.7%	5.7%	8.3%	7.4%	7.0%	7.0%	6.2%	10.7%	5.6%	7.2%	6.0%	5.0%	5.9%	3.2%	2.1%	2.0%	1.4%	2.0%

※ 割合 (%) : 初任者研修修了者全体 2,349 人、実務者研修修了者全体 1,522 人または介護福祉士全体 5,039 人に対する対象職員数の割合



■ 主たるサービス別 期首評価対象職員数

期首評価を行った介護職員数の介護サービス種別内訳として介護老人福祉施設（以降特養という）が2,341人、介護老人保健施設（以降老健という）が1,800人、通所介護が1,210人、訪問介護が1,126人となっており、それぞれ割合として特養25.0%、老健19.2%、通所介護12.9%、訪問介護12.0%となっている。また、通所介護では1年～4年の職員に対して実施している割合が高く、老健では9年以降の職員に対して、訪問では10年の職員に対する期首評価の実施割合が高くなっている。

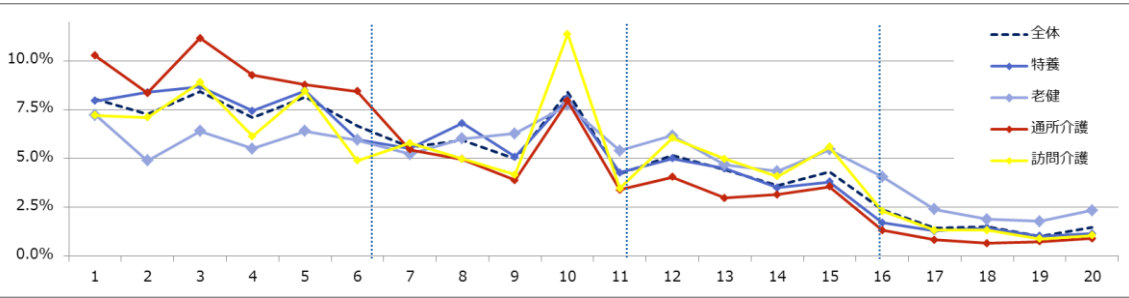


○ 主たるサービス別 経験年数対象職員数

(特養全体：n=2,341) (老健全体：n=1,800) (通所全体：n=1,210) (訪問全体：n=1,126)

経験年数(年)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
特養	186	196	203	174	198	140	129	159	119	189	100	117	105	82	89	40	30	34	24	27
割合 (%)	7.9%	8.4%	8.7%	7.4%	8.5%	6.0%	5.5%	6.8%	5.1%	8.1%	4.3%	5.0%	4.5%	3.5%	3.8%	1.7%	1.3%	1.5%	1.0%	1.2%
老健	130	88	115	99	115	107	94	108	113	139	97	111	84	78	98	73	43	34	32	42
割合 (%)	7.2%	4.9%	6.4%	5.5%	6.4%	5.9%	5.2%	6.0%	6.3%	7.7%	5.4%	6.2%	4.7%	4.3%	5.4%	4.1%	2.4%	1.9%	1.8%	2.3%
通所介護	124	101	135	112	106	102	66	60	47	96	41	49	36	38	43	16	10	8	9	11
割合 (%)	10.2%	8.3%	11.2%	9.3%	8.8%	8.4%	5.5%	5.0%	3.9%	7.9%	3.4%	4.0%	3.0%	3.1%	3.6%	1.3%	0.8%	0.7%	0.7%	0.9%
訪問介護	81	80	100	69	95	55	65	56	47	128	39	68	56	46	63	26	15	15	10	12
割合 (%)	7.2%	7.1%	8.9%	6.1%	8.4%	4.9%	5.8%	5.0%	4.2%	11.4%	3.5%	6.0%	5.0%	4.1%	5.6%	2.3%	1.3%	1.3%	0.9%	1.1%

※ 割合 (%) : 特養全体2,341人、老健全体1,800人、通所全体1,210人または訪問全体1,126人に対する対象職員数の割合



【集計結果】

■ 評価項目別 「できていない」 率集計

各評価項目別の「できていない」と評価された割合は以下の通りとなっており、認知症の方の状況の変化に応じた対応については約 3 割、介護過程の展開における個別介護計画については約 4 割、終末期ケアについて約 4 割、地域包括ケアについては約 7 割が「できていない」と評価されている。

できていない率



(全体：n=8,910)

評価項目			総数	× (できていない)	できていない率
大項目	中項目	小項目			
Ⅰ.基本介護技術の評価	1.入浴介助	1 入浴前の確認ができる	8,598	685	8.0%
		2 衣服の着脱ができる	8,602	745	8.7%
		3 洗体ができる	8,593	906	10.5%
		4 清拭ができる	8,540	1,466	17.2%
	2.食事介助	1 食事前の準備を行うことができる	8,589	793	9.2%
		2 食事介助ができる	8,583	1,113	13.0%
		3 口腔ケアができる	8,578	1,148	13.4%
	3.排泄介助	1 排泄の準備を行うことができる	8,610	532	6.2%
		2 トイレ（ポータブルトイレ）での排泄介助ができる	8,591	1,085	12.6%
		3 おむつ交換を行うことができる	8,567	981	11.5%
	4.移乗・移動・体位変換	1 起居の介助ができる	8,596	795	9.2%
		2 一部介助が必要な利用者の車いすへの移乗ができる	8,578	1,215	14.2%
		3 全介助が必要な利用者の車いすへの移乗ができる	8,578	1,512	17.6%
		4 杖歩行の介助ができる	8,485	1,348	15.9%
		5 体位変換ができる	8,565	1,154	13.5%
	5.状況の変化に応じた対応	1 咳やむせこみに対応ができる	7,310	1,013	13.9%
		2 便・尿の異常に対応ができる	7,299	1,444	19.8%
		3 皮膚の異常に対応ができる	7,298	1,551	21.3%
		4 認知症の方がいつもと違う行動を行った場合に対応できる	7,288	2,150	29.5%
Ⅱ.利用者視点での評価	1.利用者家族とのコミュニケーション	1 相談・苦情対応ができる	7,288	2,487	34.1%
		2 利用者特性に応じたコミュニケーションができる	7,314	1,196	16.4%
	2.介護過程の展開	1 利用者に関する情報を収集できる	6,038	1,001	16.6%
		2 個別介護計画を立案できる	6,006	2,472	41.2%
		3 個別介護計画に基づく支援の実践・モニタリングができる	6,025	2,054	34.1%
		4 個別介護計画の評価ができる	6,014	2,338	38.9%
	3.感染症対策・衛生管理	1 感染症予防対策ができる	7,296	1,334	18.3%
		2 感染症発生時に対応できる	7,267	1,977	27.2%
	4.事故発生防止	1 ヒヤリハットの視点を持っている	7,284	1,134	15.6%
		2 事故発生時の対応ができる	7,260	1,513	20.8%
		3 事故報告書を作成できる	6,143	1,183	19.3%
	5.身体拘束廃止	1 身体拘束廃止に向けた対応ができる	5,955	1,709	28.7%
		2 身体拘束を行わざるを得ない場合の手続きができる	5,857	3,140	53.6%
	6.終末期ケア	1 終末期の利用者や家族の状況を把握できる	5,882	2,241	38.1%
		2 終末期に医療機関または医療職との連携ができる	5,855	2,583	44.1%
Ⅲ.地域包括ケアシステム&リーダーシップ	1.地域包括ケアシステム	1 地域内の社会資源との情報共有	4,671	3,087	66.1%
		2 地域内の社会資源との業務協力	4,668	3,267	70.0%
		3 地域内の関係職種との交流	4,669	3,112	66.7%
		4 地域包括ケアの管理業務	4,643	3,813	82.1%
	2.リーダーシップ	1 現場で適切な技術指導ができる	4,721	2,066	43.8%
		2 部下の業務支援を適切に行っている	4,717	2,171	46.0%
		3 評価者として適切に評価できる	4,677	2,583	55.2%

同様に取得資格別に「できていない」と評価された割合を集計すると以下の通りとなっており、実務者研修修了者においては介護過程の展開である個別介護計画の立案、あるいは終末期ケアについて4割以上「できていない」と評価されている。一方、介護福祉士の方については、地域包括ケアシステムへの取り組みについて5割以上「できていない」と評価されると共に、実務者研修修了者同様、介護過程の展開、終末期ケアについて3割以上「できていない」と評価されている。

できていない率

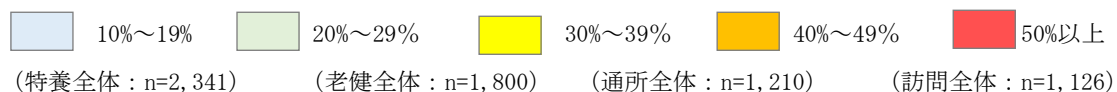


(初任者研修修了者全体：n=2,349) (実務者研修修了者全体：n=1,522) (介護福祉士全体：n=5,039)

評価項目			初任者研修	実務者研修	介護福祉士
大項目	中項目	小項目			
Ⅰ. 基本介護技術の評価	1. 入浴介助	1 入浴前の確認ができる	13.5%	8.2%	5.3%
		2 衣服の着脱ができる	14.4%	6.9%	6.5%
		3 洗体ができる	18.2%	9.9%	7.2%
		4 清拭ができる	33.7%	15.2%	10.2%
	2. 食事介助	1 食事前の準備を行うことができる	16.3%	8.0%	6.3%
		2 食事介助ができる	20.6%	12.2%	9.6%
		3 口腔ケアができる	23.9%	12.4%	8.8%
	3. 排泄介助	1 排泄の準備を行うことができる	10.4%	6.4%	4.1%
		2 トイレ（ポータブルトイレ）での排泄介助ができる	21.4%	10.9%	9.1%
		3 おむつ交換を行うことができる	21.6%	9.0%	7.5%
	4. 移乗・移動・体位変換	1 起居の介助ができる	16.7%	8.0%	6.1%
		2 一部介助が必要な利用者の車いすへの移乗ができる	22.7%	12.3%	10.7%
		3 全介助が必要な利用者の車いすへの移乗ができる	30.5%	15.7%	12.2%
		4 杖歩行の介助ができる	27.0%	14.1%	11.3%
		5 体位変換ができる	26.4%	11.2%	8.2%
	5. 状況の変化に応じた対応	1 咳やむせこみに対応ができる	29.1%	13.1%	8.7%
		2 便・尿の異常に対応ができる	38.3%	20.9%	12.9%
		3 皮膚の異常に対応ができる	41.1%	21.7%	14.2%
		4 認知症の方がいつもと違う行動を行った場合に対応できる	49.9%	32.0%	21.6%
Ⅱ. 利用者視点での評価	1. 利用者家族とのコミュニケーション	1 相談・苦情対応ができる	54.7%	36.6%	26.1%
		2 利用者特性に応じたコミュニケーションができる	28.9%	17.3%	11.6%
	2. 介護過程の展開	1 利用者に関する情報を収集できる	37.5%	16.7%	11.9%
		2 個別介護計画を立案できる	77.7%	43.2%	32.3%
		3 個別介護計画に基づく支援の実践・モニタリングができる	67.9%	34.9%	26.2%
		4 個別介護計画の評価ができる	72.9%	40.9%	30.6%
	3. 感染症対策・衛生管理	1 感染症予防対策ができる	33.6%	19.0%	12.7%
		2 感染症発生時に対応できる	50.4%	29.0%	18.4%
	4. 事故発生防止	1 ヒヤリハットの視点を持っている	28.4%	16.5%	10.8%
		2 事故発生時の対応ができる	40.0%	23.6%	13.3%
		3 事故報告書を作成できる	40.2%	22.5%	13.2%
	5. 身体拘束廃止	1 身体拘束廃止に向けた対応ができる	55.2%	31.8%	21.8%
		2 身体拘束を行わざるを得ない場合の手続きができる	82.1%	59.4%	45.3%
	6. 終末期ケア	1 終末期の利用者や家族の状況を把握できる	65.9%	41.8%	30.7%
		2 終末期に医療機関または医療職との連携ができる	75.0%	46.1%	36.5%
Ⅲ. 地域包括ケアシステム&リーダーシップ	1. 地域包括ケアシステム	1 地域内の社会資源との情報共有	86.6%	78.9%	58.6%
		2 地域内の社会資源との業務協力	86.9%	81.2%	63.7%
		3 地域内の関係職種との交流	85.5%	79.5%	59.6%
		4 地域包括ケアの管理業務	94.9%	91.6%	77.2%
	2. リーダーシップ	1 現場で適切な技術指導ができる	77.0%	53.6%	33.9%
		2 部下の業務支援を適切に行っている	77.0%	57.3%	36.4%
		3 評価者として適切に評価できる	83.6%	70.1%	45.5%

また、主たるサービス別に「できていない」と評価された割合を集計すると以下の通りとなっており、特養、老健等施設サービスにおいては地域包括ケアシステムへの取り組みについて7割位以上できていないと評価されている。また通所介護については介護過程の展開、終末期ケアについて「できていない」と評価されている割合が他のサービスと比較して高くなっている。一方、訪問介護については介護過程の展開、終末期ケア、地域包括ケアシステムへの取り組みについて他のサービスと比較して「できていない」と評価された割合が低くなっている。

できていない率



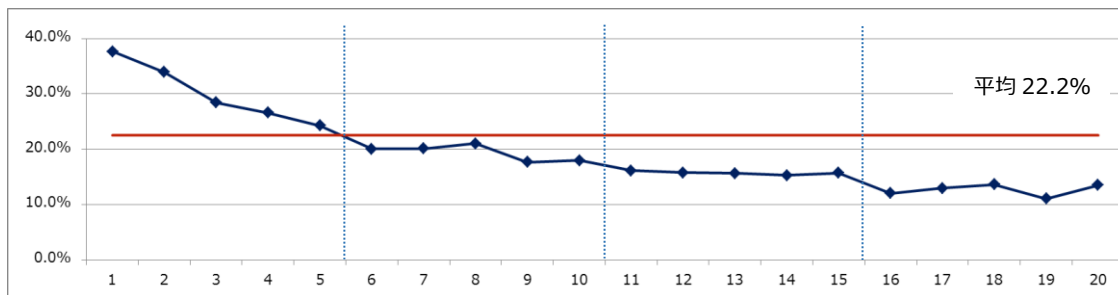
評価項目			特養	老健	通所介護	訪問介護
大項目	中項目	小項目				
Ⅰ.基本介護技術の評価	1.入浴介助	1 入浴前の確認ができる	8.3%	7.8%	8.3%	6.4%
		2 衣服の着脱ができる	10.3%	9.0%	7.3%	5.6%
		3 洗体ができる	11.5%	10.5%	10.6%	8.6%
		4 清拭ができる	16.2%	14.7%	24.2%	11.8%
	2.食事介助	1 食事前の準備を行うことができる	9.8%	10.1%	8.9%	7.1%
		2 食事介助ができる	14.1%	12.9%	14.5%	10.2%
		3 口腔ケアができる	12.6%	12.1%	17.9%	13.0%
	3.排泄介助	1 排泄の準備を行うことができる	6.4%	5.6%	7.3%	5.8%
		2 トイレ（ポータブルトイレ）での排泄介助ができる	14.3%	12.5%	13.0%	9.5%
		3 おむつ交換を行うことができる	9.5%	9.1%	18.3%	8.6%
	4.移乗・移動・体位変換	1 起居の介助ができる	10.1%	9.3%	11.4%	6.3%
		2 一部介助が必要な利用者の車いすへの移乗ができる	16.5%	16.2%	12.8%	8.2%
		3 全介助が必要な利用者の車いすへの移乗ができる	15.5%	17.2%	22.8%	16.4%
		4 杖歩行の介助ができる	20.1%	14.3%	11.7%	12.1%
		5 体位変換ができる	11.9%	10.7%	22.1%	9.7%
	5.状況の変化に応じた対応	1 咳やむせこみに対応ができる	10.9%	13.3%	19.3%	15.4%
		2 便・尿の異常に対応ができる	15.8%	18.9%	28.3%	20.8%
		3 皮膚の異常に対応ができる	17.5%	20.3%	28.7%	22.4%
		4 認知症の方がいつもと違う行動を行った場合に対応できる	31.7%	30.1%	31.2%	26.6%
Ⅱ.利用者視点での評価	1.利用者家族とのコミュニケーション	1 相談・苦情対応ができる	37.0%	33.4%	35.3%	27.8%
		2 利用者特性に応じたコミュニケーションができる	17.6%	15.4%	17.3%	14.9%
	2.介護過程の展開	1 利用者に関する情報を収集できる	15.4%	15.3%	20.9%	14.1%
		2 個別介護計画を立案できる	39.1%	35.1%	47.5%	37.9%
		3 個別介護計画に基づく支援の実践・モニタリングができる	31.9%	29.2%	41.2%	33.0%
		4 個別介護計画の評価ができる	36.0%	33.2%	44.6%	40.9%
	3.感染症対策・衛生管理	1 感染症予防対策ができる	17.2%	18.9%	24.1%	15.4%
		2 感染症発生時に対応できる	22.8%	26.1%	38.1%	27.1%
	4.事故発生防止	1 ヒヤリハットの視点を持っている	16.7%	12.3%	16.3%	18.4%
		2 事故発生時の対応ができる	18.7%	17.2%	29.1%	24.3%
		3 事故報告書を作成できる	16.9%	15.5%	25.9%	27.8%
	5.身体拘束廃止	1 身体拘束廃止に向けた対応ができる	24.7%	26.3%	37.6%	35.2%
		2 身体拘束を行わざるを得ない場合の手続きができる	52.6%	47.2%	62.1%	54.2%
	6.終末期ケア	1 終末期の利用者や家族の状況を把握できる	32.3%	39.8%	53.6%	29.4%
		2 終末期に医療機関または医療職との連携ができる	34.1%	43.4%	63.3%	40.6%
Ⅲ.地域包括ケアシステム&リーダーシップ	1.地域包括ケアシステム	1 地域内の社会資源との情報共有	71.6%	68.3%	63.8%	48.1%
		2 地域内の社会資源との業務協力	74.5%	72.5%	67.5%	56.7%
		3 地域内の関係職種との交流	71.8%	69.3%	63.6%	51.2%
		4 地域包括ケアの管理業務	86.3%	81.0%	80.8%	72.2%
	2.リーダーシップ	1 現場で適切な技術指導ができる	43.7%	43.0%	49.1%	37.8%
		2 部下の業務支援を適切に行っている	43.7%	47.9%	49.3%	42.9%
		3 評価者として適切に評価できる	54.6%	53.8%	60.9%	53.3%

■ 経験年数別 介護職員一人あたりの「できていない」率集計

経験年数毎の評価項目できていない率については、平均 22.2%となっており、経験年数 5 年未満においては 25%を超え、評価対象となる項目について 1/4 以上の項目について「できていない」と評価されている。一方、5 年以降になると 25%は下回るものの、経験年数を重ねることに比例して「できていない」率が低下となる傾向は見られず、特に 10 年以降について低下となる傾向は見られなかった。

○ 経験年数別 「できていない」率 (全体：n=8,910)

経験年数(年)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
できていない率	37.6%	33.9%	28.4%	26.6%	24.3%	20.0%	20.1%	21.0%	17.7%	18.0%	16.1%	15.8%	15.6%	15.3%	15.7%	12.1%	13.0%	13.7%	11.1%	13.5%



■ 経験年数別 評価項目「できていない」率 クロス集計（全体）

経験年数毎の評価項目別できていない率を集計すると以下の通りとなった。基本介護技術については概ね5年以内に「できてない」率が20%を切るようになってはいるが、清拭、杖歩行介助といった、介護の場面として発生率が少ない評価項目については「できていない」率が若干高く見られた。これは、介護の場面の発生率が低く、経験やOJTを通じて介護のスキル向上の機会が少ないことから、実際に評価を行うと「できていない」となる傾向が現れていると考えられる。また、状況の変化に応じた対応、特に認知症の方の対応については経験年数10年以上においても「できていない」率が高く見られた。

利用者視点での評価における評価項目である介護過程の展開については、個別介護計画の立案、評価といったことについて、経験年数5年までは半数以上が、経験年数10年においても約3割の方ができていない状況にあるといえる。また、終末期ケアについても同様の傾向が見られている。

地域包括ケアシステムへの取り組みについては経験年数にかかわらず、半数以上の方ができていないと評価されている。

できていない率



（全体：n=8,910）

評価項目			経験年数																			
大項目	中項目	小項目	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
Ⅰ. 基本介護技術の評価	1.入浴介助	1 入浴前の確認ができる	17.2	13.5	12.9	8.5	7.1	6.7	6.9	8.1	5.8	6.2	5.5	4.5	4.8	4.2	4.3	2.9	2.5	0.8	1.2	4.7
		2 衣類の着脱ができる	18.3	15.3	11.4	11.0	7.9	8.8	6.1	7.7	6.1	6.0	6.3	4.0	5.6	6.7	6.0	4.4	1.6	5.3	3.4	3.1
		3 洗体ができる	24.3	18.1	14.6	13.5	8.9	8.3	7.5	9.7	8.2	6.9	6.6	7.8	6.5	6.4	6.5	4.4	3.3	7.6	2.3	4.7
		4 清拭ができる	46.7	35.4	28.0	19.0	16.7	9.9	12.4	14.5	11.7	10.4	10.2	8.1	8.4	6.7	7.9	5.8	2.5	3.8	2.4	6.3
	2.食事介助	1 食事前の準備を行うことができる	18.9	15.9	13.3	10.6	9.1	7.2	7.5	9.5	7.7	6.4	5.5	6.5	5.1	5.1	6.8	5.8	1.7	3.8	2.3	3.1
		2 食事介助ができる	26.6	21.9	18.0	14.0	12.2	10.6	9.6	11.3	11.9	10.7	8.0	8.3	8.1	8.3	9.5	5.8	7.4	8.4	4.7	5.5
		3 口腔ケアができる	30.0	25.3	19.6	15.6	13.9	9.4	11.1	12.5	7.9	9.2	7.4	6.9	7.3	8.4	9.2	2.9	5.8	7.7	4.7	6.3
	3.排泄介助	1 排泄の準備を行うことができる	12.0	11.0	8.9	7.7	6.7	5.3	5.6	5.5	4.9	3.7	2.7	4.2	4.0	2.9	4.3	2.9	3.3	2.3	3.4	1.6
		2 トイレ（ポータブルトイレ）での排泄介助ができる	25.8	23.8	20.4	13.4	12.4	10.4	9.4	10.7	8.2	9.0	8.2	8.0	7.5	7.4	6.8	6.3	4.1	7.6	3.4	7.1
		3 おむつ交換を行うことができる	29.6	22.2	19.0	10.5	10.6	8.0	7.3	10.1	6.6	8.5	7.1	6.5	5.4	4.2	7.1	3.4	5.0	6.9	3.5	1.6
	4.移乗・移動・体位変換	1 起居の介助ができる	20.8	19.1	13.8	13.0	8.4	8.8	7.7	7.1	5.4	6.4	4.7	5.1	5.6	2.2	4.1	3.4	2.5	2.3	2.3	1.6
		2 一部介助が必要な利用者の車いすへの移乗ができる	28.1	27.0	21.7	17.2	13.3	10.2	11.3	12.1	11.2	8.8	9.4	9.6	9.9	8.1	7.9	5.3	9.9	7.6	4.7	4.7
		3 全介助が必要な利用者の車いすへの移乗ができる	35.9	32.8	28.7	20.1	16.7	14.1	14.8	15.2	13.1	10.0	11.3	11.2	10.5	10.3	9.5	8.8	8.3	13.7	4.8	7.1
		4 杖歩行の介助ができる	35.4	29.1	23.1	19.3	15.8	12.7	11.0	12.3	10.2	12.2	6.7	10.4	6.5	9.1	13.1	7.9	10.1	7.1	3.5	9.6
		5 体位変換ができる	33.1	28.3	21.3	15.1	13.9	11.3	9.2	10.1	6.8	8.6	7.5	7.2	5.4	5.8	6.6	3.9	7.4	5.3	6.0	3.2
	5.状況の変化に応じた対応	1 咳やむせこみに対応ができる	40.3	30.3	23.9	16.9	14.7	11.7	9.8	10.1	9.1	6.5	8.8	7.6	6.0	5.3	9.7	4.2	1.7	5.8	2.7	4.2
		2 便・尿の異常に対応ができる	54.6	39.6	30.9	25.8	21.2	18.1	16.0	14.6	9.9	12.7	12.9	10.6	9.3	10.3	12.0	8.4	3.5	9.9	8.1	5.1
		3 皮膚の異常に対応ができる	56.7	42.8	33.6	25.7	23.9	18.8	17.6	16.6	9.1	13.8	14.1	12.3	10.3	11.0	14.7	8.9	4.3	10.7	6.8	6.0
4 知識のふがひつと進行を行った場合に対応できる		63.9	53.6	47.1	36.9	31.2	28.2	24.6	22.6	20.2	21.2	19.6	20.8	17.3	16.3	20.5	13.2	11.3	14.2	9.5	18.8	
1.利用者家族とのコミュニケーション	1 相談・苦情対応ができる	70.0	60.4	50.5	43.8	38.5	31.5	31.6	30.0	29.6	25.8	21.3	20.1	24.2	18.5	22.2	11.1	14.9	15.7	11.8	15.6	
	2 利用者特性に応じたコミュニケーションができる	37.9	31.7	26.8	23.0	17.1	14.6	14.3	11.7	12.3	11.0	8.2	9.3	9.1	6.9	12.1	7.9	5.2	6.6	5.3	7.4	
	1 利用者に関する情報を収集できる	43.8	32.6	31.1	24.3	17.8	14.0	14.6	13.6	13.4	10.5	9.2	8.3	9.9	11.6	10.0	4.7	7.4	10.7	5.7	7.8	
	2 個別介護計画を立案できる	81.3	69.5	61.8	56.5	50.7	41.9	39.2	40.6	33.9	34.1	25.9	26.0	25.5	26.6	26.5	19.4	21.3	22.5	14.3	30.4	
	3 個別介護計画に基づく支援の実施・モニタリングができる	74.4	61.8	51.7	46.6	40.7	33.0	33.1	31.3	25.0	29.1	21.2	20.5	19.5	21.2	20.1	15.9	23.1	20.7	12.9	22.6	
	4 個別介護計画の評価ができる	77.3	67.2	59.1	53.4	48.3	36.3	37.1	35.5	30.9	33.0	24.3	24.9	26.4	25.6	22.1	20.7	25.0	24.3	17.1	26.1	
2.感染症対策・衛生管理	1 感染症予防対策ができる	41.3	36.6	28.6	24.2	20.4	14.9	15.1	12.3	12.5	13.2	9.4	10.3	9.4	12.5	11.2	11.2	7.8	8.3	6.8	13.1	
	2 感染症発生時に対応できる	66.4	57.1	43.7	33.1	30.5	23.0	25.4	22.3	15.2	17.3	14.2	15.3	13.4	16.4	15.2	9.7	11.3	12.4	4.1	16.5	
	1 ヒヤリハットの視点を持っている	36.6	28.2	24.8	22.6	17.5	10.8	14.0	11.0	11.3	8.6	8.8	9.5	13.0	11.5	8.9	7.4	6.1	7.4	4.0	7.4	
4.事故発生防止	2 事故発生時の対応ができる	57.6	41.6	32.5	28.0	22.1	16.9	15.5	14.9	14.2	12.0	12.6	11.3	10.9	11.5	12.2	7.5	10.4	11.5	6.8	11.6	
	3 事故報告書を作成できる	48.9	37.3	27.1	24.5	22.7	13.9	15.5	17.6	13.6	14.1	12.5	13.4	14.2	11.6	13.1	8.8	14.8	10.7	12.9	14.0	
	1 身体拘束廃止に向けた対応ができる	68.5	51.1	47.7	40.4	29.3	23.7	27.4	26.3	18.7	24.4	17.5	18.9	20.2	19.0	18.1	14.4	12.0	14.7	8.8	20.9	
5.身体拘束廃止	2 身体拘束を行わざるを得ない場合の手続きができる	87.5	81.4	74.9	72.3	60.7	55.4	55.2	56.4	43.1	47.1	42.0	37.5	39.4	38.4	38.3	31.5	27.0	29.5	29.4	29.2	
	1 終末期の利用者や家族の状況を把握できる	76.9	66.9	57.1	49.1	41.3	36.2	37.1	36.2	32.1	29.1	27.7	27.3	27.5	27.6	26.2	20.9	29.0	20.4	10.4	20.2	
6.終末期ケア	2 終末期に医療機関または医療職との連携ができる	85.1	75.3	60.3	57.4	47.3	46.6	39.1	44.2	36.0	35.8	29.4	33.1	28.0	32.6	33.1	29.9	32.4	28.7	25.4	23.9	
Ⅲ. 地域包括ケアシステム&リーダーシップ	1.地域包括ケアシステム	1 地域内の社会資源との情報共有	89.8	83.7	84.5	79.1	73.4	68.6	69.6	65.6	67.6	63.7	54.7	54.5	52.0	48.5	53.8	43.9	51.9	45.0	50.9	46.6
		2 地域内の社会資源との業務協力	90.6	85.7	87.7	81.1	74.4	72.6	74.0	71.6	72.2	69.3	60.3	60.8	57.8	54.9	57.6	48.8	50.0	52.5	54.4	46.6
		3 地域内の関係職種との交流	89.8	84.5	84.5	77.7	73.6	70.1	68.1	67.4	68.9	63.5	59.5	56.6	52.5	47.8	53.2	46.0	55.7	52.5	45.6	43.2
		4 地域包括ケアの管理業務	95.5	95.6	94.2	92.9	88.2	83.2	89.2	84.7	82.4	77.7	79.7	75.1	72.1	68.2	71.6	63.1	64.6	77.6	64.3	61.8
	2.リーダーシップ	1 現場で適切な技術指導ができる	88.4	79.0	67.7	61.5	52.2	41.3	44.5	39.8	36.1	34.3	30.6	28.1	23.9	30.7	24.0	22.2	21.7	22.2	19.0	28.1
		2 部下の業務支援を適切に行っている	87.3	77.0	69.9	59.5	53.9	44.9	45.4	44.0	39.7	38.3	33.2	33.3	27.6	34.3	27.0	26.2	18.1	22.2	29.3	31.5
	3 評価者として適切に評価できる	91.7	83.7	79.2	73.6	65.5	55.9	58.6	56.9	51.6	48.3	41.8	40.0	35.5	40.1	33.8	29.4	31.3	26.6	28.1	37.1	

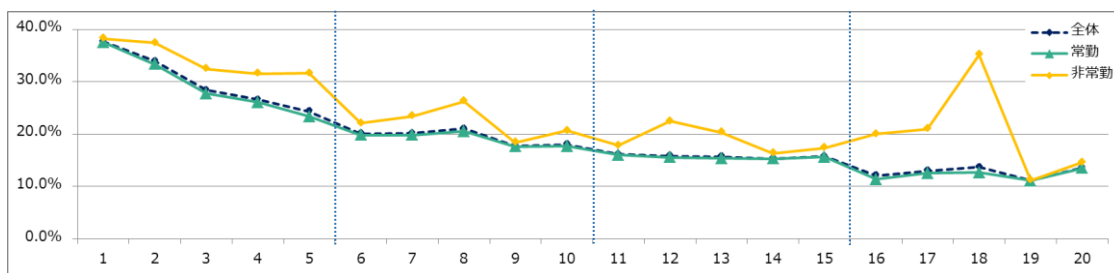
■ 【勤務形態別】 介護職員一人あたりの「できていない」率集計

常勤職員のできていない率については6年から15年にかけて低下傾向はあまり見られていない。

○ 勤務形態別 できていない率

(常勤全体：n=8,040) (非常勤全体：n=870)

経験年数(年)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
常勤	37.5%	33.4%	27.7%	26.0%	23.3%	19.8%	19.8%	20.5%	17.6%	17.6%	16.0%	15.5%	15.3%	15.3%	15.6%	11.3%	12.5%	12.7%	11.1%	13.5%
非常勤	38.3%	37.4%	32.4%	31.6%	31.6%	22.0%	23.4%	26.2%	18.3%	20.7%	17.8%	22.4%	20.3%	16.3%	17.4%	20.0%	21.0%	35.1%	11.1%	14.6%

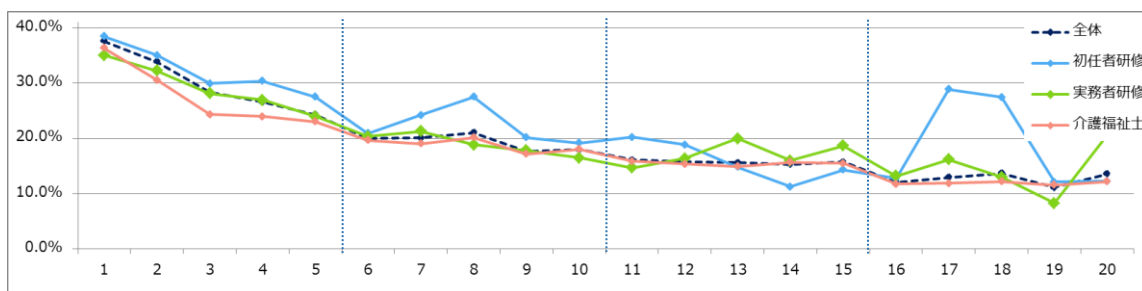


■ 【取得資格別】 介護職員一人あたりの「できていない」率集計

○ 取得資格別 できていない率

(初任者研修修了者全体：n=2,349) (実務者研修修了者全体：n=1,522) (介護福祉士全体：n=5,039)

経験年数(年)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
初任者研修	38.5%	35.1%	29.9%	30.4%	27.5%	20.9%	24.2%	27.5%	20.2%	19.1%	20.2%	18.8%	14.8%	11.3%	14.3%	12.8%	28.9%	27.5%	12.1%	12.3%
実務者研修	35.0%	32.3%	28.1%	27.0%	24.0%	20.3%	21.3%	18.8%	17.8%	16.5%	14.6%	16.4%	20.0%	16.0%	18.7%	13.2%	16.2%	13.0%	8.3%	20.6%
介護福祉士	36.4%	30.6%	24.3%	24.0%	23.0%	19.7%	19.0%	20.1%	17.2%	18.0%	15.9%	15.4%	14.9%	15.6%	15.5%	11.8%	11.9%	12.2%	11.6%	12.2%



■ 【取得資格別】 経験年数別 評価項目「できていない」率 クロス集計

初任者研修修了者における、評価項目別できていない率、特に初任者研修修了者相当とされている基本介護技術のできていない率を見てみると、5年以下の介護職員において「清拭」、「移乗・移動・体位変換」全般についてもできていないと評価されている割合が高く見られている。また「状況の変化に応じた対応」について5年以下の介護職員においては約半数ができていないとなっている。

＜初任者研修修了者＞

できていない率



(初任者研修修了者全体：n=2,349)

評価項目			経験年数																			
大項目	中項目	小項目	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
Ⅰ. 基本介護技術の評価	1.入浴介助	1 入浴前の確認ができる	19.4	13.7	14.3	9.1	10.7	11.3	14.3	13.3	9.3	10.2	13.5	8.6	9.4	10.7	7.3	5.6	33.3	0.0	0.0	0.0
		2 衣服の脱着ができる	20.3	16.9	14.8	18.1	8.3	7.0	11.4	14.7	5.6	9.3	13.5	5.7	6.3	0.0	9.8	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0
		3 流布ができる	25.3	20.1	17.8	19.8	11.2	10.4	15.7	13.3	18.5	14.4	16.2	14.3	9.4	10.7	14.6	0.0	0.0	33.3	0.0	8.3
		4 清拭ができる	52.7	39.6	34.2	28.4	24.7	15.8	19.1	27.0	30.2	23.7	29.7	14.7	12.5	0.0	19.5	0.0	33.3	16.7	0.0	0.0
	2.食事介助	1 食事前の準備を行うことができる	19.3	18.8	19.1	12.4	17.9	11.3	17.1	17.1	11.1	12.2	5.4	14.7	9.4	7.1	4.9	5.6	0.0	16.7	0.0	0.0
		2 食事介助ができる	27.1	25.5	21.2	18.6	19.5	8.6	15.7	15.8	13.0	12.4	21.6	17.6	12.5	10.7	12.2	11.1	33.3	16.7	0.0	0.0
		3 口腔ケアができる	33.8	29.2	23.8	23.7	21.9	13.9	17.1	20.3	16.7	10.3	18.9	8.6	9.4	14.3	7.3	5.6	33.3	25.0	0.0	0.0
	3.排泄介助	1 排泄の準備を行うことができる	12.3	11.8	11.3	12.3	8.9	7.8	15.7	10.5	7.4	3.1	0.0	5.7	9.4	0.0	9.8	5.6	33.3	8.3	0.0	8.3
		2 トイレ（ポータブルトイレ）での排泄介助ができる	28.5	27.0	25.2	19.1	13.7	12.2	17.4	20.0	11.1	13.4	13.5	14.3	9.4	0.0	5.0	11.1	0.0	25.0	0.0	9.1
		3 おむつ交換を行うことができる	32.8	24.5	24.3	13.0	15.2	13.2	19.1	21.6	11.1	16.5	16.2	8.6	6.5	0.0	12.2	5.6	0.0	25.0	0.0	9.1
	4.移乗・移動・体位変換	1 起居の介助ができる	22.5	21.5	17.8	19.1	10.1	15.7	14.3	10.7	11.1	7.2	5.4	2.9	9.4	0.0	10.0	0.0	33.3	8.3	0.0	0.0
		2 一部介助が必要な利用者の車いすへの移乗ができる	29.4	30.1	25.1	23.0	16.1	12.1	24.6	10.7	13.0	14.7	13.9	14.3	15.6	3.7	5.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0
		3 全介助が必要な利用者の車いすへの移乗ができる	39.6	37.1	34.5	28.2	23.7	20.7	28.6	25.0	20.4	14.4	16.2	17.1	16.1	7.1	12.5	17.6	33.3	25.0	0.0	18.2
		4 歩行時の介助ができる	37.4	31.6	28.0	23.6	21.1	17.5	22.1	26.4	19.6	15.8	11.8	14.3	9.7	11.1	25.0	6.3	0.0	27.3	0.0	9.1
		5 体位変換ができる	38.3	32.1	27.8	21.0	22.8	17.1	21.4	20.3	14.8	15.6	16.2	8.6	9.4	3.6	10.0	0.0	33.3	16.7	20.0	9.1
	5.状況の変化に応じた対応	1 咳やむせごみに対応ができる	44.4	35.1	29.0	22.9	22.3	15.6	28.6	23.6	18.8	17.2	25.9	12.5	20.0	16.7	11.1	16.7	0.0	11.1	0.0	16.7
		2 便・尿の異常に対応ができる	59.6	40.7	37.5	36.0	35.9	26.0	28.6	29.1	12.5	25.0	37.0	25.0	20.0	22.2	21.4	7.7	0.0	22.2	0.0	0.0
		3 皮膚の異常に対応ができる	62.9	46.7	40.4	36.4	33.3	22.4	31.0	37.5	15.6	25.0	37.0	33.3	26.3	22.2	25.0	15.4	0.0	22.2	0.0	16.7
		4 認知症の方がいつもと違う行動を行った場合に対応ができる	67.8	59.2	52.4	41.0	46.2	38.7	47.6	26.8	28.1	33.3	28.6	37.5	25.0	11.1	39.3	15.4	33.3	44.4	33.3	50.0
Ⅱ. 利用者視点での評価	1.利用者家族とのコミュニケーション	1 相談・苦情対応ができる	73.2	62.8	53.7	50.0	52.7	40.7	59.1	37.5	39.4	38.1	34.5	43.5	31.6	25.0	48.3	14.3	33.3	33.3	33.3	25.0
		2 利用者特性に応じたコミュニケーションができる	41.9	35.3	29.4	31.2	21.5	18.3	24.4	17.9	21.2	15.9	10.3	17.4	16.7	5.0	20.7	7.1	33.3	22.2	0.0	12.5
	2.介護過程の展開	1 利用者に関する情報を収集できる	52.1	39.4	40.5	39.0	33.8	17.5	29.2	22.6	25.0	23.5	30.8	38.5	27.3	16.7	20.0	14.3	50.0	25.0	0.0	0.0
		2 個別介護計画を立案できる	90.6	79.4	79.3	78.3	69.1	64.1	75.0	71.0	75.0	62.5	84.6	61.5	45.5	66.7	60.0	85.7	100.0	50.0	50.0	80.0
		3 個別介護計画に基づく支援の実践・モニタリングができる	87.1	73.1	63.6	69.9	56.8	43.6	58.3	64.5	50.0	56.3	69.2	53.8	45.5	50.0	30.0	71.4	100.0	75.0	50.0	80.0
		4 個別介護計画の評価ができる	87.1	78.7	71.3	78.3	66.7	41.0	70.8	67.7	65.0	56.3	69.2	61.5	45.5	66.7	40.0	71.4	100.0	75.0	0.0	60.0
	3.感染症対策・衛生管理	1 感染症予防対策ができる	47.4	38.9	31.5	34.1	30.2	21.3	28.6	24.6	24.2	19.0	21.4	31.8	10.5	19.0	21.4	14.3	0.0	66.7	33.3	12.5
		2 感染症発生時に対応できる	71.5	60.7	50.7	40.6	45.4	31.3	48.8	39.3	27.3	40.3	35.7	36.4	5.3	23.8	25.0	21.4	33.3	66.7	0.0	12.5
	4.事故発生防止	1 ヒヤリハットの視点を保持している	38.6	31.9	28.7	28.3	24.6	15.0	39.0	21.1	15.2	15.9	21.4	26.1	22.2	25.0	14.3	7.7	33.3	33.3	0.0	14.3
		2 事故発生時の対応ができる	62.4	42.3	40.0	33.3	32.3	23.8	39.0	31.6	30.3	24.6	42.9	18.2	15.8	20.0	35.7	7.7	33.3	44.4	0.0	28.6
		3 事故報告書を作成できる	56.6	39.0	33.3	40.2	41.3	20.0	36.0	42.1	33.3	32.5	31.3	30.8	18.2	33.3	43.8	28.6	50.0	75.0	50.0	50.0
	5.身体拘束廃止	1 身体拘束廃止に向けた対応ができる	74.7	54.7	56.8	52.4	46.3	34.2	47.8	43.8	52.6	46.9	46.2	46.2	27.3	50.0	30.0	66.7	50.0	50.0	50.0	25.0
		2 身体拘束を行わざるを得ない場合の手続きができる	92.0	86.0	81.0	90.2	76.9	73.7	78.3	75.0	78.9	59.4	76.9	69.2	45.5	66.7	60.0	83.3	100.0	75.0	100.0	50.0
	6.終末期ケア	1 終末期の利用者や家族の状況を把握できる	84.9	75.4	69.7	62.5	57.0	53.8	65.2	50.0	25.0	32.3	61.5	53.8	36.4	50.0	0.0	33.3	100.0	50.0	50.0	0.0
		2 終末期に医療機関または医療職との連携ができる	90.7	82.9	76.0	76.3	63.3	61.5	56.5	71.0	45.0	51.6	69.2	61.5	45.5	50.0	55.6	83.3	100.0	75.0	50.0	33.3
Ⅲ. 地域包括ケアシステム&リーダーシップ	1.地域包括ケアシステム	1 地域内の社会資源との情報共有	94.5	87.2	86.5	91.5	81.9	79.4	81.0	89.3	72.2	82.1	63.6	75.0	70.0	80.0	100.0	40.0	100.0	75.0	100.0	66.7
		2 地域内の社会資源との業務協力	94.5	89.1	88.7	95.8	80.6	78.8	76.2	85.7	66.7	82.1	63.6	75.0	60.0	60.0	77.8	80.0	100.0	75.0	100.0	66.7
		3 地域内の関係職種との交流	93.9	89.1	85.0	91.5	75.0	75.8	81.0	82.1	88.9	78.6	72.7	66.7	70.0	60.0	77.8	60.0	100.0	75.0	100.0	66.7
		4 地域包括ケアの管理業務	97.6	97.4	94.7	100.0	91.5	97.0	90.5	92.9	94.4	88.9	72.7	75.0	90.0	60.0	100.0	80.0	100.0	100.0	100.0	100.0
	2.リーダーシップ	1 現場で適切な技術指導ができる	91.6	84.6	72.9	79.5	69.4	61.8	76.2	60.7	66.7	66.7	63.6	58.3	40.0	80.0	55.6	40.0	50.0	75.0	50.0	66.7
		2 部下の業務支援を適切に行っている	90.4	82.1	75.8	74.0	72.2	52.9	81.0	67.9	72.2	70.4	54.5	58.3	50.0	60.0	44.4	60.0	50.0	100.0	100.0	100.0
		3 評価者として適切に評価できる	93.3	89.7	79.7	85.9	80.3	76.5	81.0	75.0	77.8	74.1	63.6	75.0	55.6	80.0	55.6	80.0	50.0	75.0	50.0	66.7

実務者研修修了者における、評価項目別できていない率を見てみると、「状況の変化に応じた対応」、「感染症発生時の対応」「事故発生時の対応」についてできていない率が高く示されている。

<実務者研修修了者>

できていない率



(実務者研修修了者全体：n=1,522)

評価項目			経験年数																			
大項目	中項目	小項目	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
Ⅰ.基本介護技術の評価	1.入浴介助	1 入浴前の確認ができる	12.4	17.2	13.6	8.9	3.2	6.6	7.1	5.7	6.6	6.8	5.7	0.0	7.5	0.0	9.5	3.4	0.0	5.3	0.0	14.3
		2 衣服の着脱ができる	8.2	13.1	9.4	9.0	7.1	5.5	7.1	6.8	6.6	1.0	3.8	0.0	7.4	10.0	4.8	0.0	5.0	5.3	0.0	9.5
		3 洗体ができる	22.7	15.2	11.3	13.4	7.1	6.6	7.1	5.7	10.5	3.9	7.5	5.2	7.5	10.0	7.1	10.3	5.0	0.0	0.0	19.0
		4 清拭ができる	34.0	28.9	22.7	18.6	12.2	4.5	18.6	9.1	10.5	5.8	7.5	8.6	13.2	12.5	4.8	6.9	5.3	0.0	0.0	14.3
	2.食事介助	1 食事前の準備を行うことができる	19.2	11.2	5.7	12.7	4.8	7.7	10.0	5.7	6.6	5.8	3.8	3.4	7.5	5.0	9.5	3.3	5.0	0.0	8.3	9.5
		2 食事介助ができる	29.3	15.3	16.2	11.5	9.5	7.8	7.2	11.4	10.5	6.8	5.7	6.9	11.3	10.0	11.9	6.7	15.0	5.3	0.0	23.8
		3 口腔ケアができる	23.7	23.5	18.2	12.7	8.7	7.7	15.7	9.1	3.9	4.9	3.8	3.4	11.3	20.0	11.9	0.0	15.0	5.3	0.0	23.8
	3.排泄介助	1 排泄の準備を行うことができる	14.0	12.2	7.5	6.4	4.8	6.6	7.1	5.7	5.3	4.9	1.9	1.7	3.7	5.0	7.1	0.0	5.0	0.0	0.0	4.8
		2 トイレ（ポータブルトイレ）での排泄介助ができる	17.0	17.5	16.8	11.5	10.4	9.9	11.4	6.8	7.9	2.9	9.4	5.2	7.5	10.0	7.1	0.0	10.0	5.3	0.0	23.8
		3 おむつ交換を行うことができる	23.8	18.4	13.6	7.7	6.5	7.8	5.7	4.5	4.0	3.9	5.7	3.4	7.4	2.5	4.8	0.0	20.0	10.5	0.0	4.8
	4.移乗・移動・体位変換	1 起尿の介助ができる	18.8	14.4	9.4	10.2	4.8	6.6	5.8	4.5	7.9	7.0	3.8	5.2	5.6	2.5	4.8	6.7	5.0	5.3	0.0	4.8
		2 一部介助が必要な利用者の車いすへの移乗ができる	23.0	17.5	17.8	15.3	12.0	6.7	10.0	8.0	14.5	3.0	9.6	5.2	11.1	5.1	11.9	3.4	20.0	0.0	0.0	14.3
		3 全介助が必要な利用者の車いすへの移乗ができる	28.3	22.7	24.2	17.9	12.8	9.9	14.3	15.9	13.2	8.8	9.4	3.4	7.4	10.0	17.1	3.4	20.0	10.5	0.0	19.0
		4 歩行の介助ができる	29.6	20.2	19.4	20.4	11.3	8.9	7.2	8.0	9.2	8.0	5.9	8.6	7.7	15.4	16.7	3.4	15.0	5.3	0.0	21.1
		5 体位変換ができる	20.8	21.6	14.6	16.0	12.8	7.8	4.3	9.2	5.3	3.9	7.5	6.9	7.4	10.0	4.8	0.0	5.0	5.3	16.7	9.5
	5.状況の変化に応じた対応	1 咳やむせごみに対応ができる	32.4	26.5	22.9	14.3	15.0	9.0	8.7	6.0	6.9	4.1	2.0	3.6	8.0	2.8	12.5	3.7	5.3	15.8	9.1	14.3
		2 便・尿の異常に対応ができる	49.3	31.7	28.7	24.1	25.8	18.0	21.7	11.9	11.1	11.3	17.6	3.6	12.0	5.6	17.5	22.2	5.3	10.5	18.2	20.0
		3 皮膚の異常に対応ができる	52.1	35.8	30.3	25.4	25.0	20.2	18.8	11.9	12.5	12.2	13.7	5.4	14.0	8.3	15.0	22.2	5.3	10.5	18.2	15.0
		4 認知症の方がいつもと違う行動を行った場合に対応できる	62.5	42.0	48.4	41.1	30.8	21.3	24.6	29.8	30.6	23.5	13.7	19.6	18.4	16.7	20.0	18.5	21.1	15.8	9.1	20.0
Ⅱ.利用者視点での評価	1.利用者家族とのコミュニケーション	1 相談・苦情対応ができる	60.3	46.4	49.7	46.0	44.6	32.6	25.0	35.7	36.1	22.4	17.6	22.8	22.0	32.4	30.8	14.3	21.1	26.3	8.3	19.0
		2 利用者特性に応じたコミュニケーションができる	32.0	24.7	26.1	25.2	21.5	13.5	13.2	13.1	18.1	6.1	3.9	12.3	9.8	5.4	10.0	14.3	10.5	5.3	8.3	4.8
	2.介護過程の展開	1 利用者に関する情報を収集できる	30.6	25.4	28.8	21.9	12.8	15.1	15.2	11.4	14.7	6.7	6.3	12.7	14.0	14.3	20.0	0.0	5.6	5.6	0.0	15.0
		2 個別介護計画を立案できる	68.3	57.1	56.9	49.2	46.4	43.5	34.8	45.6	32.8	37.5	18.8	36.4	30.0	32.4	37.5	33.3	33.3	27.8	16.7	30.0
		3 個別介護計画に基づく支援の実践・モニタリングができる	54.1	47.9	49.7	41.4	42.7	31.4	27.3	35.4	23.9	28.4	20.8	23.6	20.0	20.0	30.0	25.9	22.2	22.2	8.3	25.0
		4 個別介護計画の評価ができる	66.7	54.3	60.8	40.6	48.2	36.0	31.8	38.0	29.4	34.1	20.8	34.0	32.0	31.4	27.5	44.4	33.3	27.8	16.7	20.0
	3.感染症対策・衛生管理	1 感染症予防対策ができる	28.9	32.9	26.6	22.3	20.8	12.2	13.0	7.2	16.7	9.3	11.8	16.1	14.0	24.3	10.0	19.2	10.5	10.5	9.1	38.1
		2 感染症発生時に対応できる	61.1	52.9	38.6	33.8	30.0	15.6	33.3	21.7	26.4	15.5	11.8	17.9	22.0	18.9	20.5	15.4	15.8	15.8	9.1	20.0
	4.事故発生防止	1 ヒヤリハットの視点を持っている	40.0	21.2	20.9	23.0	24.0	11.1	7.2	11.0	13.9	3.1	5.9	10.5	15.7	13.5	12.8	22.2	10.5	0.0	0.0	14.3
		2 事故発生時の対応ができる	52.7	46.4	29.8	30.2	24.8	13.3	13.2	15.9	21.4	12.4	13.7	12.3	16.0	18.9	18.4	14.8	10.5	10.5	8.3	23.8
	5.身体拘束廃止	1 事故報告書を作成できる	47.5	37.5	28.1	20.3	25.4	14.8	17.9	20.5	20.3	14.9	14.6	18.2	18.0	11.4	21.1	14.8	38.9	5.6	0.0	31.6
		2 身体拘束廃止に向けた対応ができる	61.0	44.3	47.0	41.3	29.4	22.1	29.7	26.9	22.4	19.8	25.5	29.1	28.0	14.3	21.6	19.2	11.1	22.2	0.0	35.0
	6.終末期ケア	1 終末期の利用者や家族の状況を把握できる	67.8	50.7	55.7	49.6	43.4	34.9	37.5	40.3	36.4	33.7	27.7	32.1	42.9	25.7	33.3	30.8	44.4	27.8	9.1	12.5
		2 終末期に医療機関または医療職との連携ができる	81.4	63.4	55.7	52.0	48.6	42.2	39.1	50.6	36.9	35.3	29.8	37.7	36.7	28.6	28.2	38.5	32.9	38.9	36.4	18.8
Ⅲ.地域包括ケアシステム&リーダーシップ	1.地域包括ケアシステム	1 地域内の社会資源との情報共有	82.9	68.4	88.5	83.6	81.4	81.0	85.3	78.8	81.5	76.0	84.2	85.7	83.3	70.6	60.0	63.6	83.3	55.6	50.0	66.7
		2 地域内の社会資源との業務協力	82.9	71.1	92.7	86.3	74.6	78.6	91.2	78.8	85.2	86.0	70.8	85.7	83.3	70.6	66.7	63.6	80.0	66.7	37.5	66.7
		3 地域内の関係職種との交流	85.7	63.2	89.6	84.9	86.4	81.0	88.2	72.7	81.5	84.0	62.5	85.7	70.8	58.8	60.0	72.7	83.3	66.7	37.5	50.0
		4 地域包括ケアの管理業務	88.6	86.8	94.8	93.2	93.2	90.5	100.0	83.9	85.2	92.0	91.3	92.9	100.0	81.3	80.0	90.0	83.3	100.0	71.4	66.7
	2.リーダーシップ	1 現場で適切な技術指導ができる	83.3	57.9	68.0	65.8	59.3	52.4	51.4	48.5	46.4	46.0	40.0	39.3	37.5	23.5	31.3	33.3	66.7	11.1	0.0	50.0
		2 部下の業務支援を適切に行っている	75.0	52.6	75.0	65.8	57.6	64.3	57.1	54.5	50.0	54.0	48.0	50.0	29.2	29.4	33.3	50.0	66.7	11.1	37.5	50.0
	3.評価者として適切に評価できる	1 評価者として適切に評価できる	94.4	63.2	85.3	74.3	71.2	69.0	77.1	69.7	75.0	63.3	58.3	53.6	54.2	50.0	60.0	58.3	83.3	33.3	28.6	50.0

介護福祉士における、評価項目別できていない率を見てみると、「認知症の方への状況の変化に応じた対応」「介護過程の展開」、「終末期ケア」といった、介護福祉士としての専門性が求められる項目について、できていないと評価されている割合が高くなっている。こうした介護スキルの評価を通じてあらためてできていない介護スキルを見出し、OJTを通じて介護スキル向上が図られることが重要であると考えられる。

<介護福祉士>

できていない率



(介護福祉士全体：n=5, 039)

評価項目			経験年数																			
大項目	中項目	小項目	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
Ⅰ. 基本介護技術の評価	1. 入浴介助	1 入浴前の確認ができる	12.1	9.5	8.1	7.9	6.8	5.3	5.3	7.6	5.0	5.4	4.4	4.8	3.8	4.1	3.1	2.5	2.1	0.0	1.5	3.1
		2 衣服の着脱ができる	19.0	10.7	5.1	7.6	8.0	10.2	4.7	6.5	6.0	6.3	5.9	4.5	5.2	7.0	5.6	5.7	1.0	3.0	4.3	2.1
		3 洗髪ができる	21.6	12.5	11.0	9.5	8.5	8.0	5.9	10.0	5.7	6.2	5.1	7.6	5.9	5.3	5.3	3.8	3.1	5.9	2.9	1.0
		4 消拭ができる	33.3	24.0	18.7	13.2	14.9	9.4	9.8	13.2	8.7	8.8	8.1	7.3	7.0	6.6	6.7	6.3	1.0	3.0	2.9	5.3
	2. 食事介助	1 食事前の準備を行うことができる	17.2	8.7	8.8	8.3	6.8	5.8	5.0	8.8	7.4	5.4	5.8	6.2	4.2	4.9	6.6	6.3	1.0	3.0	1.4	2.1
		2 食事介助ができる	22.4	13.5	11.8	12.4	10.0	11.9	8.9	10.3	12.1	11.2	6.6	7.6	7.0	7.8	8.8	5.0	5.1	8.0	5.8	2.1
		3 口腔ケアができる	19.8	10.6	10.3	12.0	12.2	8.3	8.8	11.7	7.4	9.8	6.6	7.3	6.3	5.8	9.1	3.1	3.1	6.1	5.8	3.2
	3. 排泄介助	1 排泄の準備を行うことができる	9.5	6.7	4.4	5.4	6.4	4.2	3.2	4.4	4.4	3.6	3.3	4.5	3.5	2.9	3.2	3.1	2.0	2.0	4.3	0.0
		2 トイレ（ポータブルトイレ）での排泄介助ができる	22.4	16.3	12.5	10.9	12.5	10.0	7.4	9.7	7.7	9.4	7.3	7.9	7.3	7.8	7.0	6.9	3.1	6.0	4.3	3.2
		3 おむつ交換を行うことができる	21.7	16.3	12.6	10.5	10.0	6.4	5.3	9.1	6.4	7.9	6.2	6.8	4.9	4.9	6.7	3.8	2.0	4.0	4.4	0.0
	4. 移乗・移動・体位変換	1 起尿の介助ができる	15.5	13.5	9.6	10.5	8.8	7.2	6.8	7.0	3.7	6.1	4.8	5.4	5.2	2.5	3.1	3.1	1.0	1.0	2.9	1.1
		2 一部介助が必要な利用者の車いすへの移乗ができる	26.7	23.1	18.4	14.5	12.6	10.5	8.9	13.5	10.1	8.8	8.8	9.9	9.1	9.0	7.7	6.3	8.2	7.0	5.9	3.2
		3 全介助が必要な利用者の車いすへの移乗ができる	27.0	24.0	19.3	16.1	15.0	13.1	12.1	12.9	11.7	9.5	11.0	11.9	10.4	10.7	8.0	8.8	5.1	13.0	6.0	3.2
		4 歩行の介助ができる	31.9	26.9	14.8	16.0	14.9	12.1	9.5	10.4	8.8	12.3	6.3	10.3	5.9	7.9	10.9	8.9	9.4	5.2	4.5	7.4
		5 体位変換ができる	22.6	18.4	13.5	10.9	10.6	10.3	7.7	8.2	5.7	8.3	6.3	7.1	4.6	5.3	6.3	5.0	7.1	4.0	3.0	1.1
	5. 状況の変化に応じた対応	1 咳やむせごみに対応ができる	33.7	17.8	13.5	15.0	11.8	11.6	7.5	8.8	8.5	5.5	8.4	7.9	4.5	4.8	9.1	3.3	1.1	3.2	1.7	1.1
		2 便・尿の異常に対応ができる	43.8	43.3	18.2	20.9	14.3	16.4	12.9	12.7	9.3	11.3	9.5	10.7	8.0	10.1	10.3	6.0	3.3	8.6	6.7	2.2
		3 皮膚の異常に対応ができる	41.7	35.6	22.5	19.7	20.2	17.6	15.5	14.1	7.5	12.6	11.8	11.9	8.4	10.5	13.6	6.0	4.3	9.7	5.0	3.3
		4 認知症の方がいつもと違う行動を行った場合に対応できる	53.1	44.9	31.8	32.1	25.9	27.7	21.5	19.9	16.5	19.1	19.8	19.7	16.5	16.6	18.6	12.0	8.6	10.9	8.3	16.5
Ⅱ. 利用者視点での評価	1. 利用者家族とのコミュニケーション	1 相談・苦情対応ができる	68.0	65.2	44.0	38.7	31.3	28.9	29.1	27.1	26.7	24.9	20.5	17.9	24.0	15.7	18.1	10.1	13.0	11.8	11.5	14.0
		2 利用者特性に応じたコミュニケーションができる	30.9	25.8	21.6	16.9	13.9	14.0	13.0	10.2	9.6	11.3	8.8	8.1	8.4	7.4	11.4	6.8	3.2	5.3	4.9	7.5
	2. 介護過程の展開	1 利用者に関する情報を収集できる	36.0	23.3	20.2	19.7	15.4	13.1	13.2	13.2	12.1	10.2	8.6	6.1	8.3	11.0	8.1	5.1	6.8	11.1	7.1	6.7
		2 個別介護計画を立案できる	70.3	57.5	42.9	52.0	47.4	38.2	37.0	35.7	30.9	31.2	24.1	22.3	23.7	24.5	23.6	13.2	17.0	20.2	12.5	27.8
		3 個別介護計画に基づく支援の実践、モニタリングができる	62.2	47.9	37.0	40.2	35.6	32.0	32.3	26.4	23.3	27.2	18.5	18.3	18.3	20.6	18.1	11.0	21.6	18.0	12.5	18.9
		4 個別介護計画の評価ができる	63.5	52.1	37.8	51.3	43.4	35.6	35.3	31.1	28.6	31.0	22.5	21.5	24.4	23.4	20.5	13.3	21.6	21.3	17.9	25.6
	3. 感染症対策・衛生管理	1 感染症予防対策ができる	33.0	32.2	24.8	19.5	16.7	14.0	13.7	11.4	10.0	13.3	7.7	7.8	8.5	10.0	10.3	9.5	7.5	2.2	5.1	7.5
		2 感染症発生時に対応できる	55.7	48.9	34.9	28.4	25.1	23.0	20.5	19.3	10.7	14.7	12.3	13.4	12.3	15.3	13.4	7.6	9.7	6.5	3.4	16.1
	4. 事故発生防止	1 ヒヤリハットの視点を持っている	28.1	22.2	21.8	19.0	12.7	9.7	12.1	9.2	10.1	8.8	8.0	8.1	11.8	10.0	7.7	4.7	4.3	6.4	5.0	5.4
		2 事故発生時の対応ができる	47.4	34.4	19.3	23.6	17.3	16.2	12.8	11.5	10.4	10.3	9.2	10.6	9.6	9.5	8.9	6.1	9.7	8.5	6.8	7.5
		3 事故報告書を作成できる	32.1	32.9	15.7	20.3	16.0	12.7	13.0	13.5	10.1	12.2	10.8	11.6	13.2	11.0	10.0	6.6	9.1	8.9	14.3	8.8
	5. 身体拘束廃止	1 身体拘束廃止に向けた対応ができる	59.7	49.3	35.1	34.8	24.8	22.7	25.0	24.1	14.9	23.6	14.3	15.6	18.2	18.8	17.1	11.1	11.4	11.5	9.1	17.6
		2 身体拘束を行わざるを得ない場合の手続きができる	78.9	77.5	67.4	66.0	55.0	52.3	53.9	51.9	40.5	46.3	39.4	33.8	35.8	34.8	35.9	27.1	30.7	28.9	25.5	27.5
	6. 終末期ケア	1 終末期の利用者や家族の状況を把握できる	65.3	62.5	39.8	43.3	36.5	34.0	34.5	33.3	31.5	27.9	25.8	25.1	23.8	27.2	26.0	18.3	24.1	17.4	9.3	22.2
		2 終末期に医療機関または医療職との連携ができる	75.0	69.0	43.0	52.9	42.8	45.8	37.5	39.2	35.0	34.7	27.0	30.9	25.4	32.8	33.1	25.8	26.7	24.4	22.2	24.4
Ⅲ. 地域包括ケアシステム&リーダーシップ	1. 地域包括ケアシステム	1 地域内の社会資源との情報共有	81.8	84.5	76.3	71.2	69.2	64.5	66.0	60.6	65.3	60.6	54.3	50.0	47.6	45.6	51.4	42.1	47.9	41.8	48.9	44.3
		2 地域内の社会資源との業務協力	84.8	86.2	80.0	71.7	72.6	70.5	71.0	68.8	70.9	66.0	58.9	57.3	54.8	53.3	56.1	45.8	46.6	49.3	55.3	44.3
		3 地域内の関係職種との交流	81.8	86.2	77.5	67.8	70.2	67.1	63.7	64.7	65.3	59.5	58.4	52.8	49.5	46.4	51.6	42.6	52.1	49.3	44.7	41.8
		4 地域包括ケアの管理業務	93.8	95.6	92.4	89.5	85.1	79.6	87.4	82.3	80.8	74.9	78.7	73.1	68.1	67.2	69.8	59.8	62.0	73.0	61.7	60.0
	2. リーダーシップ	1 現場で適切な技術指導ができる	83.3	77.6	58.8	51.0	46.7	36.2	40.3	32.0	30.4	27.6	25.4	21.6	30.1	22.1	20.2	17.3	20.6	20.8	25.0	
		2 部下の業務支援を適切に行っている	86.4	79.3	54.3	49.7	47.8	40.0	40.1	39.5	35.3	33.8	30.2	30.2	26.4	34.1	25.8	22.0	13.3	19.1	25.0	27.5
		3 評価者として適切に評価できる	86.2	80.7	70.9	67.7	60.1	50.2	53.3	52.7	46.0	44.4	38.6	36.7	32.5	38.1	31.0	23.9	26.7	22.7	27.1	35.0

■ 【主たるサービス別】 経験年数別 評価項目「できていない」率 クロス集計

＜介護老人福祉施設＞

できていない率



(特養全体：n=2,341)

評価項目			経験年数																			
大項目	中項目	小項目	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
Ⅰ. 基本介護技術の評価	1. 入浴介助	1 入浴前の確認ができる	20.6	11.4	10.6	7.8	8.1	11.1	6.5	7.9	7.9	7.1	4.0	6.9	3.9	3.9	3.4	2.6	3.3	0.0	0.0	0.0
		2 衣服の着脱ができる	19.4	16.6	11.1	13.2	10.1	12.6	5.7	6.6	8.8	10.9	10.1	5.2	5.8	7.7	3.4	10.5	0.0	9.1	8.7	0.0
		3 洗剤ができる	27.8	20.2	16.7	12.0	12.1	7.4	4.9	8.6	9.6	10.4	4.0	10.3	4.9	3.8	2.3	10.5	3.3	12.1	0.0	3.8
		4 消拭ができる	46.9	33.3	24.4	19.6	16.3	6.8	10.7	11.2	9.7	10.9	5.1	9.5	2.9	7.7	4.6	5.3	3.4	6.1	4.3	8.0
	2. 食事介助	1 食事前の準備を行うことができる	19.3	13.5	13.6	10.1	10.7	9.6	6.5	9.2	11.4	10.4	8.1	6.0	4.9	5.2	2.3	10.5	0.0	3.0	0.0	0.0
		2 食事介助ができる	29.3	20.7	19.2	13.8	12.7	13.4	9.8	11.1	11.4	17.6	8.1	9.5	7.8	7.8	6.9	5.3	10.0	12.1	4.3	4.0
		3 口腔ケアができる	31.5	20.7	14.6	12.6	13.7	11.1	12.2	9.2	8.8	8.7	7.1	7.8	5.8	7.8	2.3	5.3	3.3	6.1	13.0	16.0
	3. 排泄介助	1 排泄の準備を行うことができる	13.3	11.4	8.1	4.8	8.2	6.0	3.3	5.9	4.4	4.9	3.0	6.9	4.9	5.2	1.1	2.6	3.3	0.0	4.3	0.0
		2 トイレ（ポータブルトイレ）での排泄介助ができる	30.4	26.0	22.7	13.2	15.8	11.9	8.1	8.6	7.9	13.7	7.1	9.5	5.8	7.8	6.8	13.2	0.0	12.1	4.3	16.0
		3 せむし交換を行うことができる	25.4	16.7	16.2	5.4	7.1	4.5	4.9	8.6	8.8	8.2	6.1	8.7	4.9	5.2	4.6	2.6	0.0	3.0	4.3	0.0
	4. 移乗・移動・体位変換	1 起尿の介助ができる	21.5	18.7	12.1	10.2	10.7	11.1	9.8	5.9	5.3	11.5	3.0	8.7	3.9	5.2	1.1	7.9	3.3	3.0	8.7	0.0
		2 一部介助が必要な利用者の車いすへの移乗ができる	33.7	32.1	24.2	15.0	15.8	11.2	10.6	13.1	8.8	13.1	11.1	13.9	7.8	9.1	8.0	7.9	16.7	9.1	13.0	8.0
		3 全介助が必要な利用者の車いすへの移乗ができる	32.0	29.0	24.4	12.0	14.8	10.4	11.4	15.0	8.8	11.5	9.1	13.9	5.8	7.8	4.5	10.5	10.0	21.2	8.7	8.0
		4 杖歩行の介助ができる	48.0	37.2	26.8	24.8	22.3	15.4	12.4	12.6	14.2	17.1	8.3	11.4	4.9	10.5	10.2	10.5	13.8	10.0	4.3	12.0
		5 体位変換ができる	28.7	24.5	16.7	11.4	11.7	11.3	5.7	6.6	6.1	9.3	6.1	11.3	3.9	5.2	5.7	2.6	13.3	3.0	4.3	0.0
	5. 状況の変化に応じた対応	1 咳やむせごみに対応ができる	37.0	26.4	21.0	13.2	11.5	8.8	8.8	6.4	2.8	1.2	6.6	7.6	4.0	1.5	2.4	5.6	0.0	3.2	0.0	4.2
		2 便・尿の異常に対応ができる	50.0	27.9	25.1	18.5	16.7	13.6	11.4	9.9	5.6	12.6	7.7	8.6	6.1	11.6	4.7	5.6	3.6	16.1	10.0	4.2
		3 皮膚の異常に対応ができる	49.2	31.3	26.3	21.2	20.7	16.1	11.4	12.8	5.7	15.0	8.8	10.5	5.2	10.1	9.4	8.3	6.9	12.9	5.0	8.3
		4 認知症の方がいつもと違う行動を行った場合に対応できる	66.1	52.1	50.9	37.5	33.9	31.5	21.9	26.1	14.0	29.2	17.6	25.0	18.2	20.3	20.0	16.7	13.8	25.8	5.0	16.7
Ⅱ. 利用者視点での評価	1. 利用者家族とのコミュニケーション	1 相談・苦情対応ができる	77.7	64.1	55.2	44.7	40.8	40.0	31.6	29.5	23.8	27.1	21.3	21.7	26.5	21.1	23.5	11.1	17.2	29.0	9.5	12.0
		2 利用者特性に応じたコミュニケーションができる	43.0	30.3	26.8	24.0	17.8	16.3	14.8	13.5	8.6	14.1	12.8	14.0	7.1	7.0	9.4	5.6	6.9	12.9	0.0	8.0
	2. 介護過程の展開	1 利用者に関する情報を収集できる	44.3	31.9	34.9	22.5	15.4	15.6	13.9	14.9	7.3	9.0	6.3	9.0	5.7	10.0	1.3	8.8	3.7	13.8	5.6	4.0
		2 個別介護計画を立案できる	74.3	59.3	59.3	50.0	41.0	44.2	38.0	41.3	28.4	37.2	26.3	26.1	28.7	25.0	22.1	20.6	22.2	17.2	11.1	40.0
		3 個別介護計画に基づく支援の実践・モニタリングができる	68.6	50.5	48.6	40.0	29.6	36.5	32.7	35.2	20.8	32.4	20.0	21.3	17.0	23.3	16.9	11.8	22.2	17.2	16.7	24.0
		4 個別介護計画の評価ができる	72.9	58.2	55.6	47.5	37.0	35.4	34.7	38.5	24.7	33.1	22.5	23.6	23.9	30.0	15.8	18.2	25.9	20.7	22.2	28.0
	3. 感染症対策・衛生管理	1 感染症予防対策ができる	39.7	36.1	28.8	22.7	18.9	17.2	12.2	10.6	6.6	12.9	5.4	10.3	6.1	14.1	8.2	11.4	3.4	9.7	4.8	12.0
		2 感染症発生時に対応できる	67.5	48.3	38.4	25.5	24.6	22.8	19.1	19.4	9.4	11.8	5.4	11.2	5.1	11.3	13.1	5.9	6.9	9.7	0.0	16.0
	4. 事故発生防止	1 ヒヤリハットの視点を持っている	45.8	24.5	23.8	22.8	18.9	11.4	14.8	12.8	9.5	9.4	10.8	12.3	16.2	12.7	2.4	11.4	3.4	16.1	4.8	8.0
		2 事故発生時の対応ができる	51.3	33.1	29.8	24.8	20.6	16.3	12.2	13.6	7.7	15.3	8.6	10.4	9.1	14.1	4.8	8.6	6.9	16.1	4.8	12.0
		3 事故報告書を作成できる	45.3	26.3	22.3	23.6	17.5	12.5	11.8	15.3	10.3	17.6	11.0	8.9	14.8	11.7	7.7	15.2	14.8	13.8	11.1	12.0
	5. 身体拘束廃止	1 身体拘束廃止に向けた対応ができる	67.6	44.9	46.8	34.5	22.8	21.3	22.0	21.7	14.0	18.8	8.9	13.6	14.9	15.0	16.9	12.1	22.2	21.4	5.6	20.0
		2 身体拘束を行わざるを得ない場合の手続きができる	85.3	77.5	72.9	66.1	54.5	65.6	60.2	53.8	34.8	47.5	38.0	30.7	36.0	35.0	44.6	36.4	55.6	25.0	22.2	41.7
	6. 終末期ケア	1 終末期の利用者や家族の状況を把握できる	72.1	57.3	56.6	43.7	33.1	35.9	27.6	31.7	18.8	27.8	21.5	15.9	17.4	20.7	21.1	12.5	26.9	18.5	5.6	28.0
		2 終末期に医療機関または医療職との連携ができる	76.5	61.8	47.7	47.9	34.6	41.8	32.7	31.1	20.8	32.2	16.5	20.5	16.3	22.4	26.7	18.2	25.0	18.5	11.1	24.0
Ⅲ. 地域包括ケアシステム&リーダーシップ	1. 地域包括ケアシステム	1 地域内の社会資源との情報共有	85.7	85.3	89.5	79.3	81.4	80.6	82.7	71.3	62.1	73.3	53.6	66.2	53.7	51.2	63.0	57.1	63.6	45.8	50.0	50.0
		2 地域内の社会資源との業務協力	89.3	85.3	90.8	76.8	80.4	84.7	86.5	72.4	69.7	78.4	67.9	67.6	64.2	58.1	61.1	57.1	59.1	50.0	50.0	44.4
		3 地域内の関係職種との交流	83.9	86.8	90.8	75.6	81.4	84.7	80.0	69.0	74.2	74.1	62.5	62.2	55.2	50.0	53.7	52.4	61.9	58.3	41.7	38.9
		4 地域包括ケアの管理業務	96.4	97.1	97.4	90.2	89.2	94.4	96.0	89.7	80.3	83.6	87.5	79.7	76.1	69.0	75.5	71.4	76.2	77.3	66.7	66.7
	2. リーダーシップ	1 現場で適切な技術指導ができる	94.6	79.4	71.1	59.8	52.9	44.7	52.0	37.5	30.4	35.9	31.0	29.7	19.1	25.6	14.5	13.6	27.3	20.8	23.1	27.8
		2 部下の業務支援を適切に行っている	87.5	79.4	68.8	57.3	50.0	52.6	53.9	40.9	27.9	34.2	32.8	29.7	19.1	25.6	16.4	27.3	13.6	20.8	30.8	27.8
	3. 評価者として適切に評価できる	1 評価者として適切に評価できる	92.7	83.8	80.3	72.5	65.4	64.9	66.2	52.9	42.6	47.0	37.9	37.5	35.3	34.9	27.3	27.3	31.8	20.8	16.7	44.4

<介護老人保健施設>

できていない率



(老健全体：n=1,800)

評価項目			経験年数																			
大項目	中項目	小項目	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
Ⅰ. 基本介護技術の評価	1. 入浴介助	1 入浴前の確認ができる	15.2	18.2	15.9	6.2	7.4	4.8	8.5	3.8	9.2	4.4	8.6	5.4	5.3	9.2	5.3	2.8	0.0	3.0	0.0	9.5
		2 衣類の脱着ができる	16.8	17.0	15.9	12.5	8.3	13.3	3.2	7.5	5.5	5.1	7.5	4.5	9.2	9.2	9.6	2.8	2.4	9.1	3.1	7.1
		3 洗体ができる	24.8	19.3	18.6	7.3	9.3	14.3	5.3	7.5	11.0	5.1	8.6	10.0	6.6	6.6	10.6	4.2	2.4	6.1	6.3	7.1
		4 消拭ができる	44.8	32.2	26.5	17.9	15.7	9.6	11.7	14.2	18.3	6.6	5.4	5.5	6.7	7.9	12.8	5.6	2.4	0.0	3.1	7.1
	2. 食事介助	1 食事前の準備を行うことができる	19.2	22.7	15.9	11.5	8.4	10.5	6.4	10.4	10.1	5.9	5.4	8.3	9.3	6.6	12.8	4.2	4.9	3.0	0.0	9.5
		2 食事介助ができる	26.4	23.9	21.2								8.6	11.9	10.7					3.0		
		3 口腔ケアができる	24.0	29.5	19.5	13.5	15.0	10.5	8.5	9.4	11.0	9.6	4.3	7.3	9.3	6.6	18.1	0.0	4.9	12.1	3.1	7.1
	3. 排泄介助	1 排泄の準備を行うことができる	10.3	13.6	7.1	5.2	7.4	7.6	6.4	2.8	6.4	4.4	6.5	1.8	3.9	2.6	5.3	0.0	2.4	3.0	3.1	2.4
		2 トイレ（ポータブルトイレ）での排泄介助ができる	23.8	22.7	29.2	9.4	14.8	13.3	10.6	8.6	11.9	7.4	12.9	11.0	7.9	10.5	8.5	1.4	7.3	6.1	3.1	4.8
		3 急いでおむつ交換を行うことができる	28.3	15.9	18.8	7.3	8.3	9.5	7.4	5.7	5.5	5.9	4.3	8.3	5.3	3.9	7.4	0.0	9.8	6.1	3.1	2.4
	4. 移乗・移動・体位変換	1 起居の介助ができる	19.8	23.9	20.4	15.6	9.3	12.4	8.5	5.7	8.3	2.2	5.4	6.4	5.3	1.3	6.4	2.8	2.4	6.1	0.0	2.4
		2 一部介助が必要な利用者の車いすへの移乗ができる	27.8	33.0	30.1	18.8	15.9	18.1	11.7	11.3	21.1	6.6	10.9	12.8	19.7	10.5	14.0	9.7	7.3	6.1	3.2	4.8
		3 全介助が必要な利用者の車いすへの移乗ができる	28.6	35.2	31.0	20.8	17.8	20.0	12.8	12.3	22.0	7.4	8.7	14.7	21.1	15.8	10.8	9.7	7.3	9.1	3.2	7.1
		4 歩行の介助ができる	37.1	23.3	30.6				9.6	5.7	11.9	9.6	3.3	15.6	7.9	11.8	17.0	8.3	4.9	6.1	3.2	9.5
		5 体位変換ができる	31.0	22.7	15.3	14.6	11.2	8.6	5.3	6.7	8.3	5.9	5.4	8.3	10.7	5.3	8.5	4.2	7.3	6.1	6.5	7.3
	5. 状況の変化に応じた対応	1 咳やむせごみに対応ができる	41.2	30.8	24.5	14.5	16.0	15.3	6.0	7.4	12.0	9.5	10.9	8.6	4.4	6.9	14.4	4.4	2.4	6.5	7.4	7.9
		2 便・尿の異常に対応ができる	52.9	35.9	36.2	28.6	25.5	23.5	13.3	12.6	10.0	12.8	15.2	12.4	10.4	13.9	13.3	7.4	4.9	9.7	7.4	10.5
		3 皮膚の異常に対応ができる	61.2	46.2	35.1	27.4	27.7	20.4	16.9	15.8	13.0	10.3	17.4	12.4	10.3	13.9	14.4	7.4	4.9	16.1	7.4	10.5
		4 認知症の方がいつもと違う行動を行った場合に対応ができる	67.1	56.3	47.3	41.7	39.8	39.8	30.1	22.3	25.0	19.8	20.7	25.0	23.5	20.8	23.3	10.3	7.3	6.5	11.1	28.9
Ⅱ. 利用者視点での評価	1. 利用者家族とのコミュニケーション	1 相談・苦情対応ができる	74.1	65.0	54.8	42.7	39.4	36.8	35.4	32.6	34.0	24.8	27.2	26.0	32.4	17.8	22.0	13.4	7.5	9.7	7.4	17.5
		2 利用者特性に応じたコミュニケーションができる	32.9	37.1	29.0	23.2	23.2	22.1	10.8	6.3	12.9	10.5	9.9	9.6	8.8	11.0	13.2	10.4	2.4	3.2	3.7	5.0
	2. 介護過程の展開	1 利用者に関する情報を収集できる	43.6	31.4	28.2	30.4	18.9	17.7	12.5	7.1	18.2	12.9	11.3	9.6	12.1	7.4	10.5	4.9	7.7	6.9	8.3	8.6
		2 個別介護計画を立案できる	81.5	76.5	54.9	60.0	59.5	44.3	34.7	31.8	23.9	27.0	23.8	28.7	28.8	19.1	25.6	11.5	15.4	28.6	12.5	20.0
		3 個別介護計画に基づく支援の実践・モニタリングができる	81.5	65.7	43.7	47.1	47.3	34.2	30.6	23.5	22.7	23.5	21.3	22.3	22.7	14.7	17.4	13.1	15.4	17.9	4.2	17.1
		4 個別介護計画の評価ができる	81.5	70.6	47.9	51.4	56.8	40.5	36.1	28.2	27.3	26.1	21.5	24.7	30.3	16.2	23.3	19.7	12.8	25.0	12.5	14.3
	3. 感染症対策・衛生管理	1 感染症予防対策ができる	44.0	34.9	34.0	19.5	22.3	17.9	24.4	8.4	22.8	15.4	14.1	13.5	17.6	11.0	11.0	7.4	12.2	6.5	8.0	15.0
		2 感染症発生時に対応できる	64.3	54.8	46.8	37.8	34.0	21.1	30.5	20.0	20.8	19.5	18.7	20.2	17.6	12.5	14.3	9.0	14.6	12.9	4.0	23.1
	4. 事故発生防止	1 ヒヤリハットの視点を持っている	31.8	26.2	26.6	13.4	11.7	13.7	9.9	5.3	10.9	6.5	10.9	9.6	11.8	12.3	12.2	4.4	2.4	0.0	3.8	5.0
		2 事故発生時の対応ができる	56.5	30.0	36.2	24.4	23.7	15.8	13.6	9.5	14.9	8.1	12.0	14.4	14.9	9.6	10.0	2.9	7.3	3.2	8.0	7.5
		3 事故報告書を作成できる	46.4	34.3	25.0	16.7	22.7	13.6	15.1	14.0	11.2	10.4	11.3	12.8	16.7	7.4	12.9	4.8	12.8	6.9	12.5	13.9
	5. 身体拘束廃止	1 身体拘束廃止に向けた対応ができる	69.1	67.6	51.4	48.6	28.8	27.8	27.8	28.2	20.9	23.7	19.0	13.8	21.5	14.9	14.3	4.9	10.3	13.8	12.5	13.9
		2 身体拘束を行わざるを得ない場合の手続きができる	83.3	94.1	77.5	73.9	63.0	53.8	49.3	62.4	37.6	38.9	38.0	37.2	41.5	31.8	28.6	18.0	25.6	34.6	37.5	17.1
	6. 終末期ケア	1 終末期の利用者や家族の状況を把握できる	77.8	85.7	53.5	57.4	47.3	44.2	40.8	42.9	38.8	31.9	39.2	28.6	37.9	25.4	31.0	24.6	28.2	25.0	13.0	15.6
		2 終末期に医療機関または医療職との連携ができる	85.2	85.3	53.5	52.2	45.9	49.4	39.4	54.8	42.2	35.4	42.3	33.3	36.4	37.3	36.9	24.6	30.8	35.7	26.1	21.9
Ⅲ. 地域包括ケアシステム&リーダーシップ	1. 地域包括ケアシステム	1 地域内の社会資源との情報共有	97.8	100.0	88.2	83.0	82.1	83.3	78.4	75.4	78.2	66.7	65.6	56.8	57.4	53.6	41.1	44.2	46.2	50.0	61.9	37.5
		2 地域内の社会資源との業務協力	100.0	100.0	92.2	87.2	89.3	85.4	78.4	77.0	79.6	73.6	67.2	64.9	64.8	62.5	45.6	44.2	48.0	50.0	71.4	45.8
		3 地域内の関係職種との交流	100.0	96.3	84.3	87.2	89.3	83.7	70.6	78.7	70.9	67.8	67.2	56.8	64.8	51.8	49.1	48.8	60.0	44.4	52.4	37.5
		4 地域包括ケアの管理業務	97.8	100.0	96.1	95.7	91.1	87.5	90.2	85.0	81.1	80.2	83.6	73.0	72.2	75.0	67.9	62.8	60.0	62.4	71.4	50.0
	2. リーダーシップ	1 現場で適切な技術指導ができる	100.0	96.3	70.6	63.8	60.7	48.0	50.0	52.5	40.4	32.2	37.1	26.7	35.2	33.9	17.2	11.4	21.4	16.7	9.5	28.0
		2 部下の業務支援を適切に行っている	100.0	96.3	68.6	70.2	64.3	56.0	48.1	59.0	48.2	40.9	40.3	40.0	42.6	41.8	20.7	15.9	21.4	22.2	14.3	24.0
		3 評価者として適切に評価できる	100.0	96.3	76.5	73.9	78.6	56.0	67.3	68.9	52.7	47.1	48.3	40.0	50.0	43.6	24.1	15.9	25.0	29.4	28.6	32.0

<通所介護>

できていない率



(通所全体：n=1, 210)

評価項目			経験年数																			
大項目	中項目	小項目	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
Ⅰ. 基本介護技術の評価	1. 入浴介助	1 入浴前の確認ができる	12.2	11.1	11.5	13.8	9.4	5.3	6.3	10.5	4.3	4.3	5.3	4.3	3.0	2.7	7.1	0.0	11.1	0.0	0.0	0.0
		2 衣類の脱脱ができる	14.7	12.4	11.5	7.4	8.6	6.3	1.6	10.5	2.2	3.3	0.0	6.5	3.0	5.4	2.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		3 洗剤ができる	21.7	13.3	16.9	13.0	9.4	6.3	4.7	14.0	4.3	5.6	7.9	4.3	6.1	10.8	9.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		4 消拭ができる	54.5	45.9	44.8	20.2	22.1	16.8	6.5	17.9	13.0	12.1	28.9	8.7	6.1	2.7	7.3	6.3	11.1	0.0	0.0	0.0
	2. 食事介助	1 食事前の準備を行うことができる	15.5	10.2	16.4	12.0	7.6	3.2	6.3	7.0	4.3	5.5	5.1	8.5	5.9	5.4	7.1	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0
		2 食事介助ができる	31.9	17.5	22.7	13.9	16.0	9.5	3.1	15.8	13.0	11.0	5.1	6.4	3.0	16.2	7.1	6.3	11.1	0.0	0.0	0.0
		3 口腔ケアができる	40.0	27.8	28.9	19.4	16.0	10.5	9.5	17.5	6.5	8.8	12.8	10.6	6.1	11.1	7.3	6.3	11.1	0.0	0.0	0.0
	3. 排泄介助	1 排泄の準備を行うことができる	11.7	12.2	13.0	10.0	6.6	3.1	3.1	8.8	6.7	4.3	0.0	8.5	3.0	0.0	2.4	0.0	11.1	0.0	0.0	0.0
		2 トイレ（ポータブルトイレ）での排泄介助ができる	27.5	15.5	21.8	13.8	12.4	9.4	6.3	14.0	4.3	9.9	7.7	8.5	6.1	2.7	9.5	6.3	0.0	0.0	0.0	0.0
		3 せわつ交換を行うことができる	39.5	35.4	34.4	15.0	20.6	11.7	6.3	10.7	6.5	9.9	7.7	4.3	9.4	2.7	9.8	12.5	0.0	12.5	0.0	0.0
	4. 移乗・移動・体位変換	1 起居の介助ができる	22.5	18.4	18.9	16.7	7.5	8.5	3.1	5.3	4.3	8.7	12.8	2.1	9.1	0.0	7.1	6.3	11.1	0.0	0.0	0.0
		2 一部介助が必要な利用者の車いすへの移乗ができる	28.6	14.3	20.6	18.3	13.2	8.3	4.7	8.8	6.5	7.6	12.8	6.4	5.9	8.1	4.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		3 全介助が必要な利用者の車いすへの移乗ができる	49.2	37.1	41.4	25.9	19.8	14.6	10.8	8.9	8.7	11.0	28.2	6.4	5.9	10.8	11.9	12.5	11.1	12.5	0.0	0.0
		4 歩行の介助ができる	20.3	16.3	19.7	11.9	13.2	10.4	4.6	10.5	2.2	6.5	17.9	6.4	2.9	8.1	7.1	0.0	0.0	12.5	0.0	0.0
		5 体位変換ができる	44.5	38.5	40.0	19.4	26.7	21.1	7.7	10.5	4.3	6.6	23.1	6.4	9.1	10.8	7.1	18.8	11.1	0.0	11.1	0.0
	5. 状況の変化に応じた対応	1 咳やむせこみに対応ができる	46.3	30.9	28.3	23.4	17.8	17.5	8.9	14.3	17.5	14.1	17.6	7.1	9.1	2.9	7.5	6.3	0.0	14.3	0.0	0.0
		2 便・尿の異常に対応ができる	62.2	52.4	33.7	33.0	31.5	22.5	25.0	18.4	17.5	16.5	29.4	14.3	9.1	14.3	12.8	12.5	0.0	14.3	0.0	0.0
		3 皮膚の異常に対応ができる	63.0	52.4	39.1	26.6	34.4	26.3	26.8	20.4	12.5	12.9	20.6	21.4	12.5	11.4	15.4	12.5	0.0	14.3	0.0	0.0
		4 認知症の方がいつもと違う行動を行った場合に対応できる	64.2	50.6	46.7	33.3	28.9	24.1	27.8	20.4	25.0	21.2	29.4	14.3	12.5	8.6	25.0	12.5	12.5	14.3	12.5	10.0
Ⅱ. 利用者視点での評価	1. 利用者家族とのコミュニケーション	1 相談・苦情対応ができる	65.9	49.4	51.1	40.2	38.9	22.9	28.1	22.0	42.5	29.6	23.5	17.1	15.6	11.1	28.9	6.3	25.0	28.6	25.0	30.0
		2 利用者特性に応じたコミュニケーションができる	45.1	24.7	33.7	17.6	13.3	8.4	14.0	10.0	17.5	11.0	2.9	4.9	9.7	2.8	15.4	6.3	12.5	0.0	12.5	10.0
	2. 介護過程の展開	1 利用者に関する情報を収集できる	54.1	26.2	26.5	25.4	20.0	14.3	11.9	14.6	23.1	10.3	18.8	11.4	16.7	15.6	18.4	7.1	28.6	14.3	0.0	10.0
		2 個別介護計画を立案できる	90.0	63.1	68.7	60.6	49.3	30.9	40.5	34.1	54.1	29.9	40.6	31.4	25.8	34.4	31.6	21.4	42.9	42.9	25.0	40.0
		3 個別介護計画に基づく支援の実践・モニタリングができる	85.0	61.5	53.7	56.3	40.0	27.1	33.3	24.4	43.2	29.9	37.5	20.0	20.0	25.0	28.9	21.4	42.9	42.9	25.0	20.0
		4 個別介護計画の評価ができる	80.0	62.5	59.7	63.4	49.3	25.7	38.1	24.4	47.4	31.3	43.8	28.6	25.8	34.4	31.6	21.4	57.1	28.6	25.0	20.0
	3. 感染症対策・衛生管理	1 感染症予防対策ができる	48.2	45.9	27.5	31.5	24.4	16.7	21.4	14.0	20.5	13.4	15.2	14.6	16.1	13.9	15.4	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0
		2 感染症発生時に対応できる	73.5	64.7	51.6	42.4	37.8	30.1	33.9	22.0	30.8	22.0	30.3	22.0	22.6	27.8	21.1	25.0	12.5	28.6	0.0	10.0
	4. 事故発生防止	1 ヒヤリハットの視点を持っている	37.3	23.2	23.0	23.7	17.8	6.0	14.5	8.0	15.4	6.2	6.1	9.8	16.1	8.3	15.4	6.3	12.5	0.0	0.0	10.0
		2 事故発生時の対応ができる	72.0	50.0	40.0	35.5	25.6	19.3	23.6	16.0	20.5	13.4	27.3	17.1	12.5	5.6	23.7	6.3	12.5	14.3	12.5	10.0
		3 事故報告書を作成できる	56.1	47.7	24.6	37.0	27.6	18.1	15.6	19.0	28.9	8.5	21.9	13.9	16.7	6.3	16.2	13.3	42.9	14.3	37.5	30.0
	5. 身体拘束廃止	1 身体拘束廃止に向けた対応ができる	75.0	48.4	47.6	50.0	35.1	23.5	40.5	36.6	27.0	24.6	37.5	23.5	26.7	41.9	22.2	35.7	0.0	16.7	0.0	20.0
		2 身体拘束を行わざるを得ない場合の手続きができる	95.0	77.4	75.8	77.1	68.1	51.6	57.5	48.7	52.9	50.8	58.6	51.5	44.8	50.0	40.0	42.9	71.4	33.3	25.0	50.0
	6. 終末期ケア	1 終末期の利用者や家族の状況を把握できる	94.8	74.6	64.4	62.3	58.1	36.4	59.0	41.5	51.4	38.1	48.4	48.5	34.5	51.6	33.3	23.1	42.9	50.0	0.0	30.0
		2 終末期に医療機関または医療職との連携ができる	98.3	82.5	74.6	76.8	65.8	50.8	65.8	50.0	67.6	43.5	63.3	57.6	37.9	53.3	37.1	69.2	85.7	83.3	25.0	30.0
Ⅲ. 地域包括ケアシステム&リーダーシップ	1. 地域包括ケアシステム	1 地域内の社会資源との情報共有	91.2	80.4	74.6	73.6	65.6	46.2	61.3	48.4	73.5	55.9	45.2	46.9	46.2	55.2	61.8	54.5	50.0	60.0	50.0	70.0
		2 地域内の社会資源との業務協力	93.0	75.0	81.4	86.8	68.9	49.0	58.1	64.5	73.5	64.4	48.4	59.4	46.2	58.6	61.8	54.5	50.0	60.0	37.5	60.0
		3 地域内の関係職種との交流	93.0	75.0	76.3	81.1	63.9	48.1	61.3	45.2	76.5	52.5	67.7	50.0	42.3	44.8	52.9	41.7	66.7	60.0	37.5	50.0
		4 地域包括ケアの管理業務	96.4	90.9	89.7	96.2	86.9	66.7	83.9	80.6	85.3	66.1	77.4	75.0	57.7	72.4	76.5	66.7	66.7	75.0	50.0	80.0
	2. リーダーシップ	1 現場で適切な技術指導ができる	89.7	69.6	66.1	64.8	47.5	37.7	41.9	38.7	52.9	37.3	45.2	25.0	25.9	34.5	27.8	41.7	33.3	20.0	12.5	30.0
		2 部下の業務支援を適切に行っている	84.5	62.5	70.7	63.0	50.8	32.1	48.4	35.5	58.8	44.1	38.7	28.1	29.6	31.0	25.7	25.0	33.3	20.0	50.0	40.0
		3 評価者として適切に評価できる	93.1	74.5	79.7	83.0	68.9	42.3	64.5	48.4	73.5	47.5	45.2	50.0	38.5	34.5	44.1	41.7	50.0	40.0	25.0	30.0

<訪問介護>

できていない率



(訪問全体：n=1, 126)

評価項目			経験年数																			
大項目	中項目	小項目	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
Ⅰ. 基本介護技術の評価	1. 入浴介助	1 入浴前の確認ができる	20.0	13.0	15.1	7.5	3.3	1.9	3.2	2.0	2.2	5.0	10.5	1.5	2.0	2.2	1.7	0.0	7.1	0.0	11.1	0.0
		2 衣類の脱着ができる	20.0	7.8	7.4	7.6	3.3	1.9	4.8	4.0	2.2	4.2	7.9	0.0	4.0	4.3	6.7	0.0	0.0	6.7	0.0	0.0
		3 洗剤ができる	26.7	11.7	6.5	14.9	7.7	9.4	11.3	2.0	4.4	6.7	5.3	4.6	6.1	4.3	3.4	0.0	7.1	13.3	0.0	8.3
		4 消拭ができる	29.7	26.0	16.0	16.4	7.7	3.8	9.7	6.0	11.4	11.8	5.3	6.3	12.2	6.5	3.4	4.5	0.0	13.3	0.0	0.0
	2. 食事介助	1 食事前の準備を行うことができる	16.0	17.9	9.7	7.5	8.7	3.8	6.3	8.0	4.4	5.8	0.0	6.3	4.0	0.0	1.7	0.0	0.0	6.7	12.5	0.0
		2 食事介助ができる	24.0	23.1	10.8	14.9	9.8	7.7	8.1	6.0	11.1	2.5	7.9	6.3	8.0	4.3	8.5	4.3	0.0	13.3	12.5	8.3
		3 口腔ケアができる	23.0	26.9	18.3	22.4	13.0	13.5	11.1	4.1	8.9	8.3	10.5	1.5	8.0	15.6	8.5	4.5	7.1	20.0	0.0	0.0
	3. 排泄介助	1 排泄の準備を行うことができる	13.3	11.5	11.5	9.0	4.3	3.8	4.8	3.9	4.5	1.7	0.0	1.5	4.0	0.0	8.5	4.3	0.0	6.7	11.1	0.0
		2 トイレ（ポータブルトイレ）での排泄介助ができる	21.9	25.0	12.8	10.4	9.8	5.7	8.1	4.0	6.8	6.7	5.3	1.5	6.1	6.7	1.7	8.7	7.1	13.3	11.1	0.0
		3 せわつ交換を行うことができる	26.7	14.1	10.4	10.4	8.7	5.7	6.5	7.8	4.5	5.8	5.3	3.1	2.0	4.3	6.9	4.5	0.0	13.3	12.5	0.0
	4. 移乗・移動・体位変換	1 起居の介助ができる	20.0	17.9	7.4	9.0	4.4	3.8	3.2	3.9	2.3	4.2	2.6	3.1	8.0	2.2	1.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		2 一部介助が必要な利用者の車いすへの移乗ができる	22.7	16.7	12.9	10.6	8.9	1.9	10.0	6.0	4.5	4.2	2.8	4.6	4.1	4.4	1.7	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0
		3 全介助が必要な利用者の車いすへの移乗ができる	33.8	35.9	25.3	22.7	18.5	15.4	12.9	13.7	11.4	8.3	5.3	4.6	6.3	11.1	13.8	4.8	0.0	20.0	0.0	9.1
		4 歩行の介助ができる	21.9	26.7	17.2	15.4	9.1	11.5	8.3	16.7	11.4	8.5	5.4	3.1	6.4	2.2	12.3	0.0	28.6	13.3	0.0	0.0
		5 体位変換ができる	24.0	28.2	12.6	12.1	8.9	5.7	11.5	8.0	6.8	6.7	0.0	1.5	4.1	2.2	6.9	0.0	0.0	6.7	0.0	0.0
	5. 状況の変化に応じた対応	1 咳やむせこみに対応ができる	41.5	35.2	22.4	18.9	18.4	10.5	10.0	9.3	9.4	6.3	9.1	10.5	15.0	12.2	13.2	0.0	0.0	7.1	0.0	0.0
		2 便・尿の異常に対応ができる	57.7	40.7	37.3	32.7	15.8	23.7	16.0	11.6	12.5	10.5	12.1	15.8	15.0	9.8	15.1	0.0	7.7	7.1	0.0	0.0
		3 皮膚の異常に対応ができる	57.7	43.4	41.8	28.3	17.1	18.4	13.7	23.3	6.3	13.7	21.2	14.0	17.5	14.6	18.9	5.3	7.7	0.0	0.0	16.7
		4 認知症の方がいつもと違う行動を行った場合に対応できる	60.4	49.1	48.5	24.5	26.7	18.4	16.0	23.3	25.0	18.1	26.5	23.2	13.2	14.6	13.2	10.5	23.1	15.4	16.7	16.7
Ⅱ. 利用者視点での評価	1. 利用者家族とのコミュニケーション	1 相談・苦情対応ができる	54.0	51.9	38.9	39.6	37.3	23.7	18.4	28.6	28.1	22.6	12.1	15.8	17.5	19.0	13.5	10.0	23.1	7.1	0.0	25.0
		2 利用者特性に応じたコミュニケーションができる	36.5	35.2	19.4	24.5	14.7	13.2	6.1	9.5	19.4	11.7	9.1	8.8	12.5	9.5	5.8	0.0	0.0	7.1	0.0	0.0
	2. 介護過程の展開	1 利用者に関する情報を収集できる	39.5	31.4	24.5	15.6	12.7	9.4	7.5	16.7	10.3	8.5	12.0	5.9	11.8	12.1	8.9	0.0	15.4	7.7	0.0	12.5
		2 個別介護計画を立案できる	78.9	62.9	64.2	53.3	41.3	18.8	20.0	41.7	41.4	32.5	24.0	21.6	21.2	22.6	22.2	42.9	30.8	23.1	0.0	62.5
		3 個別介護計画に基づく支援の実践・モニタリングができる	66.7	68.6	54.7	44.4	37.5	18.8	22.5	36.1	24.1	27.5	12.0	19.6	24.2	18.8	15.6	14.3	46.2	23.1	0.0	50.0
		4 個別介護計画の評価ができる	81.6	68.6	65.4	54.5	45.3	25.0	20.0	41.7	39.3	35.0	28.0	28.0	36.4	28.1	20.0	28.6	46.2	30.8	0.0	62.5
	3. 感染症対策・衛生管理	1 感染症予防対策ができる	37.7	20.8	23.9	23.1	13.7	5.3	6.3	21.4	9.4	12.9	3.1	8.9	10.3	14.6	11.5	5.3	23.1	21.4	0.0	12.5
		2 感染症発生時に対応できる	64.0	50.9	42.3	30.6	30.1	27.0	22.9	28.6	9.4	22.2	9.4	16.1	23.1	16.7	11.8	0.0	30.8	14.3	0.0	12.5
	4. 事故発生防止	1 ヒヤリハットの視点を持っている	36.5	32.7	25.4	19.2	22.7	17.9	14.6	19.5	12.5	13.0	9.4	10.3	17.9	19.0	5.8	10.0	7.7	21.4	14.3	12.5
		2 事故発生時の対応ができる	58.0	50.0	33.8	32.7	22.7	28.2	10.4	29.3	21.9	12.1	18.8	12.3	15.4	19.0	11.5	10.0	15.4	35.7	0.0	25.0
		3 事故報告書を作成できる	65.8	51.4	31.5	20.0	33.8	24.2	25.0	27.0	17.9	21.0	23.1	25.0	17.6	28.1	23.9	7.1	15.4	23.1	0.0	37.5
	5. 身体拘束廃止	1 身体拘束廃止に向けた対応ができる	73.0	57.1	51.0	31.8	32.3	27.6	28.9	42.9	21.4	29.9	36.0	32.7	31.3	21.2	27.3	30.8	15.4	16.7	16.7	37.5
		2 身体拘束を行わざるを得ない場合の手続きができる	86.1	73.5	66.7	67.4	53.3	34.5	41.7	60.0	46.4	46.7	62.5	47.8	45.2	43.3	44.2	61.5	46.2	50.0	33.3	50.0
	6. 終末期ケア	1 終末期の利用者や家族の状況を把握できる	68.4	62.9	52.0	27.5	27.4	30.0	22.5	42.9	29.6	14.3	24.0	23.5	18.8	15.6	15.9	15.4	15.4	7.7	16.7	12.5
		2 終末期に医療機関または医療機関との連携ができる	86.8	80.0	66.0	48.7	34.9	33.3	20.0	60.0	29.6	32.9	20.0	36.0	30.3	21.9	20.5	46.2	23.1	15.4	33.3	37.5
Ⅲ. 地域包括ケアシステム&リーダーシップ	1. 地域包括ケアシステム	1 地域内の社会資源との情報共有	80.0	68.0	77.5	55.6	52.0	48.3	38.9	59.3	52.2	46.3	27.3	30.8	37.9	37.9	41.5	15.4	50.0	16.7	14.3	42.9
		2 地域内の社会資源との業務協力	80.0	80.0	85.0	63.9	57.1	48.3	50.0	63.0	56.5	50.7	36.4	53.8	51.7	44.8	58.5	46.2	40.0	33.3	28.6	28.6
		3 地域内の関係職種との交流	86.7	76.0	80.0	50.0	59.2	48.3	41.7	55.6	52.2	46.3	18.2	46.2	44.8	37.9	45.0	30.8	40.0	33.3	28.6	42.9
		4 地域包括ケアの管理業務	90.0	96.0	85.0	77.8	81.6	64.3	75.0	85.2	81.8	69.7	50.0	65.8	65.5	55.2	56.1	63.6	50.0	66.7	50.0	75.0
	2. リーダーシップ	1 現場で適切な技術指導ができる	83.3	84.0	62.5	54.1	50.0	34.5	19.4	25.9	43.5	27.3	13.6	30.0	24.1	26.7	19.5	15.4	20.0	25.0	14.3	42.9
		2 部下の業務支援を適切に行っている	80.0	76.0	70.0	48.6	57.1	37.9	22.2	37.0	39.1	37.9	22.7	32.5	31.0	33.3	34.1	23.1	30.0	33.3	14.3	57.1
		3 評価者として適切に評価できる	93.3	84.0	82.1	67.6	63.3	41.4	25.0	66.7	52.2	46.2	40.9	41.0	37.9	51.7	36.6	46.2	40.0	25.0	14.3	71.4

(3) データ分析からの提言

今回のデータ分析において、介護スキルに対して「経験年数」を軸に「勤務形態」「取得資格」「サービス種別」について集計を行った。集計結果からみると、「勤務形態」の場合、例えば常勤であれば何年でこうした介護の実践力を持ち合わせるべき、実践力を期待するといったことが明確化になっているとは読み取れず、「取得資格」についても、例えば介護福祉士であれば経験年数何年でこうした介護の実践能力を発揮すること、またこうした介護スキルの指導能力を備えていること、といったことが明確とはなっていない。更にはサービス種別についても同様である。

つまり、OJT の標準化といってもその在るべき目標値、少なくとも上記項目「経験年数」「勤務形態」「取得資格」「サービス種別」のマトリクス表において、それぞれ具体的に期待する介護スキルが描けない限り、標準化は困難ではないかと考えられる。

従って、今回分析したデータをもとに、厚生労働省はじめ、各職能団体、各事業団体等含め協議し、より具体的な介護スキル取得目標値を早急に設定し、全国の介護事業所において目標とされた介護スキル習得に向けて OJT 計画が策定され、OJT が推進されるよう、ひいては OJT が標準化されるよう期待する。

以下は一例として掲載する

■ 初任者研修修了者（サービス種別共通）

< 常勤 >

介護職従事後一年以内に利用者の状態に応じた介護（入浴介助、食事介助、排泄介助、移乗移動体変換）を習得。

< 非常勤 >

介護職従事後一年以内に利用者の状態に応じた介護（常勤にて示した介護のうち、清拭、口腔ケア、おむつ交換、杖歩行介助のうち2つは適用外可）を習得。

2. 0JT を通じた人材育成マネジメント標準化に向けた支援ツールの提案

これらの分析結果により、介護キャリア段位制度の評価項目については常勤・非常勤といった勤務形態や、介護職員としての経験年数、あるいは所属するサービス種別にかかわらず、幅広く対応し、対象となる介護職員が実践的スキルとして何ができていないか、何を向上させていかなければならないかが明確にすることができる有効性・汎用性の高い 0JT ツールである、と言える。また、「できていない」と評価された項目を見ると、介護職員としての経験年数や役職に応じて、本来は 0JT を通じて経験学習していかなければならないところであるが、業務効率化を優先した業務分掌などにより、経験の場が提供されず、学習の機会を損ねている可能性があると考えられる。

介護職員の人材育成を機能させていくためには、経験学習が第一であり、また、一度軽経験しただけでは実践スキルを習得したことにはならない、利用者の状態も日々変わり環境も変化する介護独特の人材育成、これは 0JT、つまり介護現場でしか経験できない、学習できないものである。経験を積み重ね、トライアンドエラーを繰り返し、介護の実践能力を高めていく事が必要になってくる。

介護キャリア段位制度の評価項目はそうした意味合いにおいては、介護実践スキル習得のための経験づくりのきっかけになっていると考えられる。

従ってこの評価項目を活用することを前提に、介護職員の実践スキルの評価を推進し、0JT が推進されるよう、次のフェーズでは如何にしてこの評価項目を活用し、実践スキル評価の標準化、ひいては 0JT を通じた人材育成の標準化に寄与できるか考察する。

(1) 介護の実践スキルの評価の標準化に向けて

介護キャリア段位制度における期首評価について、先の通り期首評価票を用いて評価が実施されているが、期首評価の際に用いられている評価項目については「小項目」と呼ばれる評価項目により実施されている。一方で期末評価の際に用いられる評価項目は「チェック項目」と呼ばれている、小項目の評価項目を更に細分化し、より評価が具体的かつ明確にできるような評価項目により実施されている。0JT を通じた人材育成マネジメントを考察するにあたり、最初の段階である実践スキルの評価の標準化は必須であり、そうした評価データの蓄積が今後の介護職員の介護の実践スキル向上に向けたシステム構築の基礎データとなり、ナレッジの蓄積へとつながっていくと考えられる。

従って、今後の実践スキルの評価の標準化のツールとして、期末評価票で使用されているチェック項目評価を活用し、期首評価票の様式の提案を行うこととした。なお、様式の作成にあたっては、評価者である介護職員の業務負担とならないよう配慮し、できるだけ簡単に実施できること、また、データ化（数値化）し分析ができるようにすること等の観点から、チェック式の評価票を作成することとした。また、期首評価後に 0JT 指導計画へ

とつないでいくため、参考情報としてどういった点が「できていなかった」のか、あるいは、OJT 指導者への留意事項を記載できるよう、OJT プロセスに配慮した記載欄を設けることとした。

■ 期首評価票 様式案（一部項目抜粋）

職員名:	所属:	役職:
取得資格:	勤続年数:	

1. 基本介護技術の評価				
1. 入浴介助		評価		
(1) 入浴前の確認	チェック日	チェックポイント	評価	できていなかったこと・OJT 指導の参考となること
① バイタルサインの測定値を確認し、利用者へのヒアリング等による体調確認、意向確認を行い、入浴の可否について医療職等に確認したか。		☐ バイタル値の確認 ☐ 利用者への体調・入浴意向ヒアリング ☐ ヒアリング以外による体調確認・入浴意向確認 ☐ 医療職等への入浴可否確認		
② バイタルサインや医療職の指示、既往歴などに基づいて、利用者の状態に応じた入浴方法が選択できたか。		☐ バイタル値に基づく入浴方法の選択 ☐ 医療職の指示に基づく入浴方法の選択 ☐ 既往歴に基づく入浴方法の選択 ☐ 他の判断材料に基づく入浴方法の選択		
(2) 衣服の着脱ができる	チェック日	チェックポイント	評価	できていなかったこと・OJT 指導の参考となること
① 体調や気候に配慮した服装であるかを確認していたか。利用者の好みの服を選んでもらったか。		☐ 体調に配慮した服装である ☐ 気候に配慮した服装である ☐ 利用者の好みの服装である		
② スクリーンやバスタオル等を使い、プライバシーに配慮したか。		☐ スクリーン・バスタオルを使用してプライバシーに配慮 ☐ 他の方法でプライバシーに配慮		
③ 脱衣の際に、健側から患側の順番で行ったか。		☐ 健側から患側の順で脱衣		
④ ボタンの取り外し等、自力でできるところは自分で行うよう利用者に促したか。		☐ 自力でできることの声かけ		
⑤ しわやたるみがないか確認したか。		☐ 衣服のしわ無し ☐ 衣服のたるみ無し		
(3) 洗体ができる（浴槽に入ることを含む。）	チェック日	チェックポイント	評価	できていなかったこと・OJT 指導の参考となること
① 末梢から中枢の順番で洗い、陰部は健側の手で洗ってもらったか。		☐ 末梢から中枢の順番で洗体 ☐ 利用者に健側の手で陰部を洗ってもらった		
② 浴槽に入る時は、利用者に手すりや浴槽の縁をつかんでもらうとともに、バランスを崩さないよう身体を支え、入浴できたか。		☐ 利用者に手すりや浴槽の縁をつかんでもらった ☐ バランスを崩さないよう身体を支えた		
③ 簡易リフト等、入浴機器を用いて入浴した場合、利用者の身体的位置を確認し、手が挟まれる等の事故に注意して、安全に入浴できたか。		☐ 利用者の身体的位置を確認 ☐ 安全な入浴		
④ 入浴後、体調の確認をし、十分な水分補給ができたか。		☐ 体調ヒアリング ☐ 十分な水分補給		
(4) 清拭ができる	チェック日	チェックポイント	評価	できていなかったこと・OJT 指導の参考となること
① バイタルサインの測定、利用者へのヒアリング等による体調確認の結果や医療職の指示等に基づき、清拭の可否について確認したか。		☐ バイタルサインの測定値の確認 ☐ 利用者への体調・意向ヒアリング ☐ ヒアリング以外による体調確認・意向確認 ☐ 医療職等への清拭可否判断の確認		
② スクリーンやバスタオル等を使い、プライバシーや保温に配慮したか。		☐ スクリーン・バスタオルを使用してプライバシーに配慮 ☐ 他の方法でプライバシーに配慮 ☐ バスタオルを使用して保温に配慮 ☐ 他の方法で保温に配慮		
③ 末梢から中枢の順番で清拭を行うなど、適切な手順でできたか。		☐ 末梢から中枢の順番で清拭 ☐ その他適切な手順での清拭		

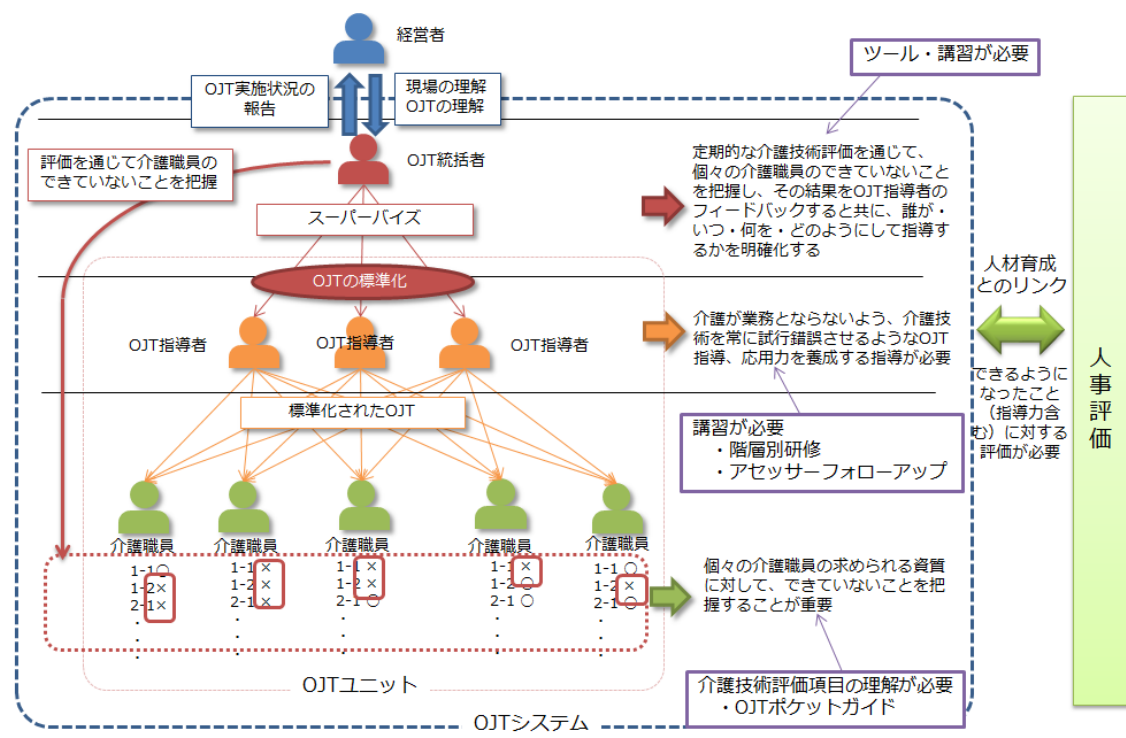
チェックポイントに示している内容がデータ化されることで、評価項目に示されている介護の実践スキルのできる・できないが把握できるとともに、評価項目を跨いで分析することにより、評価項目の主旨として含まれている介護の基本理念、自己決定の尊重や自立支援といったことについて実践スキルが身についているかどうかも見える化できるものと考えられる。

(2)OJT を通じた人材育成マネジメント標準化に向けて

第2章における取組事例にみると、OJT を通じた人材育成が推進されている事業所・法人の共通点として、OJT 指導を統括する「OJT 統括者」が配置されていることが挙げられた。介護現場の中で複数の介護職員が複数の介護職員に対して OJT を実施している状況の中、それらの OJT についてどのような形で実施されているか整理し、効果的・効率的に OJT を推進する役割を担っている。なお、ヒアリング等を通じてこの「OJT 統括者」に求められる資質として、

- 事業所における OJT を通じた人材育成のビジョン設計ができること
 - 介護が実践される場に配置され、介護職員の介護実践を観察し、把握できる環境にあること
 - 根拠に基づく介護を理解した上で、介護技術の評価が適切にできること
 - 介護職員の間違っ技術を見出し、根拠を持って説明、気づきを含めた指導ができること
 - OJT 指導者に対し、適切な指導がされているか確認できる環境にあること
 - 介護職員の OJT を通じた人材育成実施に関する権限を有すること
 - 人材育成業務専任または、人材育成を主たる業務とすること
- といったことが挙げられた。

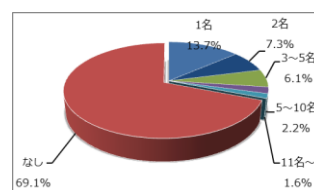
これらを踏まえ、介護事業所における OJT を通じた人材育成の仕組みをビルトインしていくつか考察するに当たり、以下の図を作成し、第2回委員会において協議した。



第2回の委員会における委員の意見として、OJT 統括者として専任で配置するという点については、ある程度規模が大きい事業所、法人であれば可能であるが、通常の介護事業所においては人員の余力がなく、専任の人材を配置するのは難しいのではないかと、この意見が挙げられた。昨年の調査研究においても、教育研修担当者の専任化についてアンケートを行ったところ、法人で専任化しているとの回答は 30.9%となり、専任化していない割合は 7 割となった。更に事業所における専任化率は 13.4%に留まっており、85%以上が専任化できていない状況にあることも明らかとなっている。

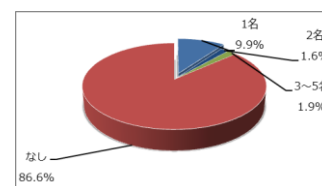
法人における「専任」の教育研修担当者数

全 体	1名	2名	3～5名	5～10名	11名～	なし
314 30.9%	43 13.7%	23 7.3%	19 6.1%	7 2.2%	5 1.6%	217 69.1%



事業所における「専任」教育研修担当者数

全 体	1名	2名	3～5名	5～10名	11名～	なし
314 13.4%	31 9.9%	5 1.6%	6 1.9%	0 0.0%	0 0.0%	272 86.6%



出典：平成 28 年度 介護サービス事業者における

OJT を通じた介護職員の人材育成のあり方に関する調査研究事業

これらの意見・調査研究結果をもとに、OJT 統括者として専任で配置する以外の方策を検討したところ、OJT 統括者は、必ずしも介護事業所内部で専任化する必要はないのではないか、OJT 統括者の役割についてはアウトソーシング化が可能ではないか、といった意見が挙げられた。

先に挙げた OJT 統括者に求められる資質として、介護が実践される場に配置され、介護職員の介護実践を観察し、把握できる環境にあること以外については、介護事業所内で専任化する要件とはならないため、この点について考察し、複数人対複数人の OJT 指導内容の情報が得られ、OJT 指導標準化に向けた情報の提供、スーパーバイズできるような環境下であれば、OJT 指導の日頃から介護実践を観察し、把握できる環境になくとも良いのではないかと、この意見が出された。

従って、介護事業所内において OJT を通じた人材育成マネジメントの標準化にあたり、それを仕組みとしてビルトインしていくためには、OJT 統括者として事業所内に専任化し配置することを理想としつつ、介護職員の実践スキルの状況を把握、データ化を行い、実践スキルとして誰が何を身につけるべきかといった OJT 統括者が必要とする情報を集約、分析

できるようなシステムの構築について考察し、OJT 統括者となるべく職員に対する支援ツールの提供、また OJT 統括者のアウトソーシング化について検討することとした。

【OJT を通じた実践スキル習得システムの検討】

OJT を通じた人材育成マネジメントの標準化にあたり、それを仕組みとしてビルトインしていく為の OJT を通じた実践スキル習得システム（仮名称）導入フローについて以下の通り整理した。

1. 介護職員の実践スキル評価の実施
2. OJT 統括者による OJT 指導計画の立案
3. OJT 指導者並びに指導対象介護職員への OJT 指導計画の共有
4. OJT 指導のポートフォリオ
5. OJT 統括者による OJT の評価と結果を踏まえた次期 OJT 指導計画の立案

1. 介護職員の実践スキル評価の実施

介護職員の実践スキルの評価にあたり、「利用者の状態に応じた介護が実践できているか」が重要な視点であるため、その視点を踏まえた評価を実践するための講習プログラムである、介護キャリア段位制度のアセッサー講習を受講し修了となったアセッサーによる評価を推奨する。なお、評価方法について、介護キャリア段位制度では期首評価時は日頃のケアの状況を振り返って評価する、となっているが、このシステムにおいてはできるだけ現認、記録確認による評価を推奨する。また、OJT を通じた人材育成マネジメントを事業所内に仕組みとしてビルトインするため、介護職員の実践スキルの評価については特定の介護職員に絞って実施するのではなく、チームに所属する介護職員全員、あるいは事業所に所属する介護職員全員に対して実施することも合わせて推奨する。

一方で、これらの実践スキルの評価を事業所内で実施するにあたり、所属する介護職員だけで実践しようとするとは非常に負荷がかかるため、介護キャリア段位制度においては現在認められていないが、事業所外のアセッサーによる評価の実施、アウトソーシング化について検討することが望まれる。

用いるシートについては、先に案として示した期首評価票の様式案をもとに、実践スキルとしてできていないことを抽出し、OJT を通じて身につけるべき実践スキルを見出すことを主旨とした評価票とするため、評価項目については介護キャリア段位制度の期末評価で用いるチェック項目を基準とし、容易に評価ができるようチェック式にて記載できるようにした。なお、介護事業所によっては評価項目を事業所内にて基準化し、浸透させたいとのことから、一部チェックポイント表記を変更したいといった要望があることを想定し、

このシステムにおいては、チェックポイントについて介護事業所にて変更できるようにすることとする。

また、評価結果のデータについては、OJTの標準化を目的に、OJT指導進捗管理、傾向値分析を実施するため、クラウド型データベースを活用し集積していくこととする。

■実践スキル評価票（案）一部抜粋（サンプルデータ含む）

職員名:	所属:	役職:		
取得資格:	勤続年数:			
I. 基本介護技術の評価				
1. 入浴介助		評価		
(1) 入浴前の確認	チェック日	チェックポイント	評価	できていなかったこと・OJT指導の参考となること
① バイタルサインの測定値を確認し、利用者へのヒアリング等による体調確認、意向確認を行い、入浴の可否について医療職等に確認したか。	2018/2/3	☒ バイタル値の確認 ☒ 利用者への体調・入浴意向ヒアリング ☐ ヒアリング以外による体調確認・入浴意向確認 ☒ 医療職等への入浴可否確認	○	特に入浴方法を確認すること無く普通浴の実施にあたっていた
② バイタルサインや医療職の指示、既往歴などに基づいて、利用者の状態に応じた入浴方法が選択できたか。	2018/2/3	☐ バイタル値に基づく入浴方法の選択 ☐ 医療職の指示に基づく入浴方法の選択 ☐ 既往歴に基づく入浴方法の選択 ☐ 他の判断材料に基づく入浴方法の選択	×	
(2) 衣服の着脱ができる	チェック日	チェックポイント	評価	できていなかったこと・OJT指導の参考となること
① 体調や気候に配慮した服装であるかを確認していたか。利用者の好みの服を選んでもらったか。	2018/2/3	☐ 体調に配慮した服装である ☒ 気候に配慮した服装である ☐ 利用者の好みの服装である	△	あらかじめ用意されており、着替えの確認をしていなかった。脱衣場で他の方の着替えもあったが、特に配慮されていなかった。片麻痺では無い方であったためか、脱衣配慮がされているかわからなかった。
② スクリーンやバスタオル等を使い、プライバシーに配慮したか。	2018/2/3	☐ スクリーン・バスタオルを使用してプライバシーに配慮 ☐ 他の方法でプライバシーに配慮	×	
③ 脱衣の際に、健側から患側の順番で行ったか。	2018/2/3	☐ 健側から患側の順で脱衣	△	
④ ボタンの取り外し等、自力でできるところは自分で行うよう利用者に促したか。	2018/2/3	☒ 自力でできることの声かけ	○	
⑤ しわやたるみがないか確認したか。	2018/2/3	☒ 衣服のしわ無し ☒ 衣服のたるみ無し	○	
(3) 洗体ができる（浴槽に入ることを含む。）	チェック日	チェックポイント	評価	できていなかったこと・OJT指導の参考となること
① 末梢から中枢の順番で洗い、陰部は健側の手で洗ってもらったか。	2018/2/3	☒ 末梢から中枢の順番で洗体 ☐ 利用者に健側の手で陰部を洗ってもらった	△	利用者に健側の手で陰部を洗ってもらうような声かけはなかった。バランスを崩さないような声かけがなかった
② 浴槽に入る時は、利用者に手すりや浴槽の縁をつかんでもらうとともに、バランスを崩さないよう身体を支え、入浴できたか。	2018/2/3	☐ 利用者に手すりや浴槽の縁をつかんでもらった ☒ バランスを崩さないよう身体を支えた	△	
③ 簡易リフト等、入浴機器を用いて入浴した場合、利用者の身体の位置を確認し、手が挟まれる等の事故に注意して、安全に入浴できたか。	2018/2/3	☐ 利用者の身体の位置を確認 ☐ 安全な入浴	—	
④ 入浴後、体調の確認をし、十分な水分補給ができたか。	2018/2/3	☒ 体調ヒアリング ☒ 充分な水分補給	○	
(4) 清拭ができる	チェック日	チェックポイント	評価	できていなかったこと・OJT指導の参考となること
① バイタルサインの測定、利用者へのヒアリング等による体調確認の結果や医療職の指示等に基づき、清拭の可否について確認したか。	2018/2/3	☒ バイタルサインの測定値の確認 ☒ 利用者への体調・意向ヒアリング ☐ ヒアリング以外による体調確認・意向確認 ☐ 医療職等への清拭可否判断の確認	△	利用者への清拭実施確認の声かけがなかった。個室での清拭でプライバシーの配慮はされているが、保温に対する配慮が見られなかった
② スクリーンやバスタオル等を使い、プライバシーや保温に配慮したか。	2018/2/3	☐ スクリーン・バスタオルを使用してプライバシーに配慮 ☒ 他の方法でプライバシーに配慮 ☐ バスタオルを使用して保温に配慮 ☐ 他の方法で保温に配慮	×	
③ 末梢から中枢の順番で清拭を行うなど、適切な手順でできたか。	2018/2/3	☒ 末梢から中枢の順番で清拭 ☒ その他適切な手順での清拭	○	

介護キャリア段位制度の評価項目 左記介護キャリア段位制度の評価項目を

チェックポイントとして分解

事業所にて表記変更可能とする

なお、評価についてはチェックポイントでチェックされた項目を参考に、

○：できている △：一部できていない ×：できていない

の評語にて評価する。△または×と評価された項目についてその理由、OJT指導の際の留意点などを「できていなかったこと、OJT指導の参考となること」の記載欄に記載する。

2. OJT 統括者による OJT 指導計画の立案

実践スキル評価結果を基に、OJT 指導者の選定、OJT を通じて身につけるべき実践スキル項目、OJT 期間といった OJT 指導計画を策定するための要素について、OJT 統括者が実態把握できるよう、以下の様式を用意する。なお、実践スキル評価結果を登録することで以下のシートについて自動的に集計される仕組みとする。

また OJT 統括者として統括する範囲、チームあるいは事業所に所属する介護職員の実践スキルの習得状況を一覧で把握できるようにすることで、介護職員個人の OJT 指導計画策定に向けたアセスメントを行うだけでなく、チームあるいは事業所としての実践スキルアセスメントを行い、チームとして補完すべき実践スキルを抽出し、チームとしての OJT 指導計画策定にも寄与できると考えられる。

■実践スキルアセスメント一覧表（案）一部抜粋（サンプルデータ含む）

 実践スキル習得割合 70%未満  実践スキル習得割合 50%未満

	職員A 主任 介護福祉士 11年	職員B 主任 介護福祉士 8年	職員C 主任 介護福祉士 6年	職員D 介護福祉士 7年	職員E 介護福祉士 4年	職員F 実務者研修 3年	職員G 初任者研修 2年	職員H 初任者研修 2年	OJTユニット 総合
I. 基本介護技術の評価									
1.入浴介助									
(1)入浴前の確認ができる	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	50.0%	50.0%	0.0%	25.0%	66%
① バイタルサインの測定値を確認し、利用者へのヒアリング等による体調確認、意向確認を行い、入浴の可否について医療職等に確認したか。	○	○	○	○	○	○	×	×	75%
② バイタルサインや医療職の指示、既往歴などに基づいて、利用者の状態に応じた入浴方法が選択できたか。	○	○	○	○	×	×	×	△	56%
(2)衣服の着脱ができる	90%	100%	90%	70%	70%	60%	50%	60%	74%
① 体調や気候に配慮した服装であるかを確認していたか。利用者の好みの服を選んでもらったか。	△	○	△	×	△	△	△	△	50%
② スクリーンやバスタオル等を使い、プライバシーに配慮したか。	○	○	○	○	×	×	×	×	50%
③ 脱衣の際に、健側から患側の順番で行ったか。	○	○	○	○	○	△	○	○	94%
④ ボタンの取り外し等、自力でできるところは自分で行う利用者に促したか。	○	○	○	△	○	○	×	△	75%
⑤ しわやたるみがないか確認したか。	○	○	○	○	○	○	○	○	100%
(3)洗体ができる	88%	100%	38%	50%	75%	67%	63%	50%	66%
① 末梢から中枢の順番で洗い、陰部は健側の手で洗ってもらったか。	△	○	△	×	△	△	×	△	44%
② 浴槽に入る時は、利用者に手すりや浴槽の縁をつかんでもらうとともに、バランスを崩さないよう身体を支え、入浴できたか。	○	○	×	○	△	△	△	×	56%
③ 簡易リフト等、入浴機器を用いて入浴した場合、利用者の身体の位置を確認し、手が挟まれる等の事故に注意して、安全に入浴できたか。	○	○	○	—	○	—	○	○	100%
④ 入浴後、体調の確認をし、十分な水分補給ができたか。	○	○	×	△	○	○	○	△	75%
(4)清拭ができる	67%	100%	83%	83%	33%	50%	33%	33%	60%
① バイタルサインの測定、利用者へのヒアリング等による体調確認の結果や医療職の指示等に基づき、清拭の可否について確認したか。	○	○	○	△	×	△	△	×	56%
② スクリーンやバスタオル等を使い、プライバシーや保温に配慮したか。	×	○	△	○	×	×	×	×	31%
③ 末梢から中枢の順番で清拭を行うなど、適切な手順でできたか。	○	○	○	○	○	○	△	○	94%

なお、本一覧表でアセスメントしやすくするため、小項目単位で取得状況割合を数値化する。○＝100% △＝50% ×＝0%とし、縦軸である職員単位においては該当評価項目数を母数として取得状況割合を算定。実践スキル取得状況が芳しくない項目についてはアラート表示をする。（上記例では取得状況 70%未満で色）

また合わせて評価項目毎に集計し、評価対象職員数を母数として取得状況割合を算定。
同様に。実践スキル取得状況が芳しくない項目についてはアラート表示をする。(上記例では取得状況 70%未満で色)

次にアセスメントにて抽出された OJT 指導ポイントに対する OJT 指導者の選定を実施することとなるが、本システムにおいては個の介護職員に対し個の OJT 指導者を配置するマンツーマンの OJT 体制ではなく、複数人の介護職員に対する複数人の OJT 指導者による OJT 体制を構築するための支援ツールを提供する。なお、OJT 指導者の配置にあたっては、OJT 指導者の養成も兼ねる意図的な OJT 指導者の配置や OJT 指導者の負荷分散も考察できるようなツールであることも配慮し、以下の様式を提案する。

■OJT 指導計画書 (案) 一部抜粋 (サンプルデータ含む)

職員名:	所属:	役職:
取得資格:	勤続年数:	

1. 基本介護技術の評価						
1. 入浴介助		評価			OJT指導計画	
(1) 入浴前の確認	チェック日	チェックポイント	評価	できていなかったこと・OJT指導の参考となること	OJT担当者	実施時期 主なOJT指導内容
① バイタルサインの測定値を確認し、利用者へのヒアリング等による体調確認、意向確認を行い、入浴の可否について医療職等に確認したか。	2018/2/3	☒ バイタル値の確認 ☒ 利用者への体調・入浴意向ヒアリング ☒ ヒアリング以外による体調確認・入浴意向確認 ☒ 医療職等への入浴可否確認	○	特に入浴方法を確認すること無く普通浴の実施にあたっていた	職員C	個別介護計画、当日の利用者の確認を怠らないよう指導 実施: 3月上旬 期日: 3/15
② バイタルサインや医療職の指示、既往歴などに基づいて、利用者の状態に応じた入浴方法が選択できたか。	2018/2/3	☐ バイタル値に基づく入浴方法の選択 ☐ 医療職の指示に基づく入浴方法の選択 ☐ 既往歴に基づく入浴方法の選択 ☐ 他の判断材料に基づく入浴方法の選択	×			
(2) 衣服の着脱ができる	チェック日	チェックポイント	評価	できていなかったこと・OJT指導の参考となること	OJT担当者	実施時期 主なOJT指導内容
① 体調や気候に配慮した服装であるかを確認していたか、利用者の着の服を選んでもらったか。	2018/2/3	☐ 体調に配慮した服装である ☐ 気候に配慮した服装である ☐ 利用者の好みによる服装である	△	あらかじめ用意されており、着替えの確認をしていなかった。 更衣場で他の方の着替えもあったが、特に配慮されていなかった。 片側では無い方であったためか、脱衣配慮がされているからなかった。	職員A	自己決定の尊重、尊厳の保持について配慮されるよう指導 実施: 3月上旬 期日: 3/15
② スクリーンやバスタオル等を使い、プライバシーに配慮したか。	2018/2/3	☐ スクリーンやバスタオルを使用してプライバシーに配慮 ☐ 他の方法でプライバシーに配慮	×			
③ 脱衣の際に、健側から患側の順番で行ったか。	2018/2/3	☐ 健側から患側の順で脱衣	△			
④ ボタンの取り外し等、自力でできることは自分で行うよう利用者に促したか。	2018/2/3	☒ 自力でできることの声かけ	○			
⑤ しわやたるみがないか確認したか。	2018/2/3	☒ 衣服のしわ直し ☒ 衣服のたるみ無し	○			
(3) 洗体ができる(浴槽に入ることを含む)	チェック日	チェックポイント	評価	できていなかったこと・OJT指導の参考となること	OJT担当者	実施時期 主なOJT指導内容
① 床から中箱の順番で洗い、陰部は健側の手で洗ってもらったか。	2018/2/3	☒ 床から中箱の順番で洗体 ☒ 利用者に健側の手で陰部を洗ってもらった	△	利用者に健側の手で陰部を洗ってもらうような声かけはなかった。 バランスを崩さないような声かけはなかった。	職員A	自立支援の働きかけを重視 実施: 3月上旬 期日: 3/15
② 浴槽に入る時は、利用者に手すりや浴槽の縁をつかんでもらうとともに、バランスを崩さないよう身体を支えた、入浴できたか。	2018/2/3	☒ 利用者に手すりや浴槽の縁をつかんでもらった ☒ バランスを崩さないよう身体を支えた	△			
③ 風呂マット等、入浴機器を用いて入浴した場合、利用者の身体の位置を確認し、手が挟まれる等の事故に注意して、安全に入浴できたか。	2018/2/3	☐ 利用者の身体の位置を確認 ☐ 安全な入浴	—			
④ 入浴後、体調の確認をし、十分な水分補給ができたか。	2018/2/3	☒ 体調にアタリ ☒ 十分な水分補給	○			

なお、OJT 指導時期については、該当介護職員及び OJT 指導者を含めたシフト調整もあることから、ここでは大まかなスケジュール感を設定するにとどめ、OJT 指導計画の情報共有の際に実際の時期について調整することとする。

■OJT 指導計画書（チーム用） （案）一部抜粋 （サンプルデータ含む）

	OJTユニット 総合	重点課題	必要な支援	取り組み
I.基本介護技術の評価				
1.入浴介助				
(1)入浴前の確認ができる	66%			
① バイタルサインの測定値を確認し、利用者へのヒアリング等による体調確認、意向確認を行い、入浴の可否について医療職等に確認したか。	75%			
② バイタルサインや医療職の指示、既往歴などに基づいて、利用者の状態に応じた入浴方法が選択できたか。	56%			
(2)衣服の着脱ができる	74%	自己決定の尊重、尊厳の保持について配慮されるよう指導	ユニットB、職員Kによる尊厳保持に関する勉強会	3月中旬、尊厳の保持について相互確認を実施
① 体調や気候に配慮した服装であるかを確認していたか。利用者の好みの服を選んでもらったか。	50%			
② スクリーンやバスタオル等を使い、プライバシーに配慮したか。	50%			
③ 脱衣の際に、健側から患側の順番で行ったか。	94%			
④ ボタンの取り外し等、自力でできるところは自分で行うよう利用者に促したか。	75%			
⑤ しわやたるみがないか確認したか。	100%			
(3)洗体ができる	66%	尊厳の保持について配慮されるよう指導	ユニットB、職員Kによる尊厳保持に関する勉強会	3月中旬、尊厳の保持について相互確認を実施
① 末梢から中枢の順番で洗い、陰部は健側の手で洗ってもらったか。	44%			
② 浴槽に入る時は、利用者に手すりや浴槽の縁をつかんでもらうとともに、バランスを崩さないよう身体を支え、入浴できたか。	56%			
③ 簡易リフト等、入浴機器を用いて入浴した場合、利用者の身体の位置を確認し、手が挟まれる等の事故に注意して、安全に入浴できたか。	100%			
④ 入浴後、体調の確認をし、十分な水分補給ができたか。	75%			
(4)清拭ができる	60%	尊厳の保持について配慮されるよう指導	ユニットB、職員Kによる尊厳保持に関する勉強会	3月中旬、尊厳の保持について相互確認を実施
① バイタルサインの測定、利用者へのヒアリング等による体調確認の結果や医療職の指示等に基づき、清拭の可否について確認したか。	56%			
② スクリーンやバスタオル等を使い、プライバシーや保温に配慮したか。	31%			
③ 末梢から中枢の順番で清拭を行うなど、適切な手順でできたか。	94%			

アセスメントにてチーム全体として実践スキルを向上さなければならない項目として抽出された項目については、チームの指導計画として策定し、該当する項目の実践スキル向上のための施策、集中勉強会の開催、あるいは外部講師の活用など、OJT のみならず、OFF-JT も活用してチームとして学びの場が醸成されるよう指導計画を策定する。

3. 指導対象介護職員並びに OJT 指導者への OJT 指導計画の情報共有

OJT 指導計画策定の後、評価結果及び策定した指導計画を、該当する介護職員並びに担当となる OJT 指導者にフィードバックし、OJT 指導のためのシフト調整を依頼する。また、チーム全体として実践スキルを向上さなければならない項目については、OJT 指導者に情報を共有し、実践スキル向上の為に必要とされる支援について、協議を行い、OJT 実施に向けた具体的な施策をチーム内で策定し指導計画に反映させる。

4. OJT 指導のポートフォリオ

OJT 指導者による OJT 指導のデジタルポートフォリオを組み込み、蓄積されたデータを分析し、より効果的な OJT 指導の実施あるいは OJT 指導者へのスーパーバイズとなるような仕組みを構築する。なお、現段階においてはテキストベースでのデータ蓄積としている為、OJT の指導者の負荷が想定される。データがある程度蓄積された時点でテキストマイニングを行い、できるだけ項目化できるよう配慮する必要がある。

■OJT 指導ポートフォリオ (案) 一部抜粋

職員名:	役職:
取得資格:	

1. 基本介護技術の評価								
1. 入浴介助		評価	OJT指導計画		OJTポートフォリオ			
(1) 入浴前の確認		評価	できていなかったこと・OJT指導の参考となること	OJT担当者	実施時期	主なOJT指導内容	OJT実施内容	OJTの効果
①	バイタルサインの測定値を確認し、利用者へのヒアリング等による体調確認、意向確認を行い、入浴の可否について医療職等に確認したか。	○	特に入浴方法を確認すること無く普通浴の実施にあたったこと	職員C	実施:3月上旬 期日:3/15	個別介護計画、当日の利用者の確認を怠らないよう指導		
	② バイタルサインや医療職の指示、既往歴などに基づいて、利用者の状態に応じた入浴方法が選択できたか。	×						
(2) 衣服の着脱ができる		評価	できていなかったこと・OJT指導の参考となること	OJT担当者	実施時期	主なOJT指導内容	OJT実施内容	OJTの効果
①	体調や気候に配慮した服装であるかを確認していた	△	あらかじめ用意されておらず、着替えの確認をしていなかった。	職員A	実施:3月上旬 期日:3/15	自己決定の尊重、尊厳の保持について配慮されるよう指導		
	利用者の好みや服装を選んでもらったか。	×	脱衣槽で他のの方の着替えもあったが、特に配慮されていなかった。					
	スクリーンやバスタオル等を使い、プライバシーに配慮したか。	△	片着脱では無い方であったためか、脱衣配慮がされているかわからなかった。					
	脱衣の際に、健側から患側の順番で行ったか。	×						
	ボタンの取り外し等、自力でできるところは自分で行うよう利用者へ促したか。	○						
⑤	しわやたるみがないか確認したか。	○						
(3) 身体ができる(浴槽)に入ることを含む。		評価	できていなかったこと・OJT指導の参考となること	OJT担当者	実施時期	主なOJT指導内容	OJT実施内容	OJTの効果
①	長袖から中履の履き替えでいい、陰部は健側の手で洗ってもらったか。	△	利用者に健側の手で陰部を洗ってもらうよう声かけはなかった。	職員A	実施:3月上旬 期日:3/15	自立支援の働きかけを重視		
	浴槽に入る時は、利用者に手すりや浴槽の縁をつかんでもらうとともに、バランスを崩さないよう身体を支え、入浴で助けたか。	△	パジャマを脱ぎたいという声かけはなかった。					
	簡易リフト等、入浴機器を用いて入浴した場合、利用者の身体の位置を確認し、手が挟まれる等の事故に注意して、安全に入浴できたか。	—						
	入浴後、体調の確認をし、十分な水分補給ができたか。	○						
(4) 清拭ができる		評価	できていなかったこと・OJT指導の参考となること	OJT担当者	実施時期	主なOJT指導内容	OJT実施内容	OJTの効果
①	バイタルサインの測定、利用者へのヒアリング等による体調確認の結果や医療職の指示等に基づき、清拭の可否について確認したか。	△	利用者への清拭実施確認の声かけがなかった。	職員B	実施:3月上旬 期日:3/15	個室での清拭でプライバシーの配慮はされているが、保温に対する配慮が見られなかった。		
	② スクリーンやバスタオル等を使い、プライバシーや保温に配慮したか。	×						
	③ 衣類から中履の履き替えで清拭を行うなど、適切な手順でできたか。	○						

5. OJT 統括者による OJT の評価と結果を踏まえた次期 OJT 指導計画の立案

設定した OJT 指導期間の経過において OJT が適切に実施されたかどうかを確認するため、OJT 指導が必要とされた項目について実践スキルの評価を実施。OJT の効果として OJT 指導者の資質によるものなのか、OJT を受ける側の資質によるものか、環境によりものなのか、OJT 手法、プロセスによるものなのかを、実践スキルの評価結果と OJT プロセスの中で蓄積されたポートフォリオをクロス集計・分析し、より効果の高い OJT について情報を提供する。またその情報を参考に次期 OJT 指導計画の立案を行っていく。

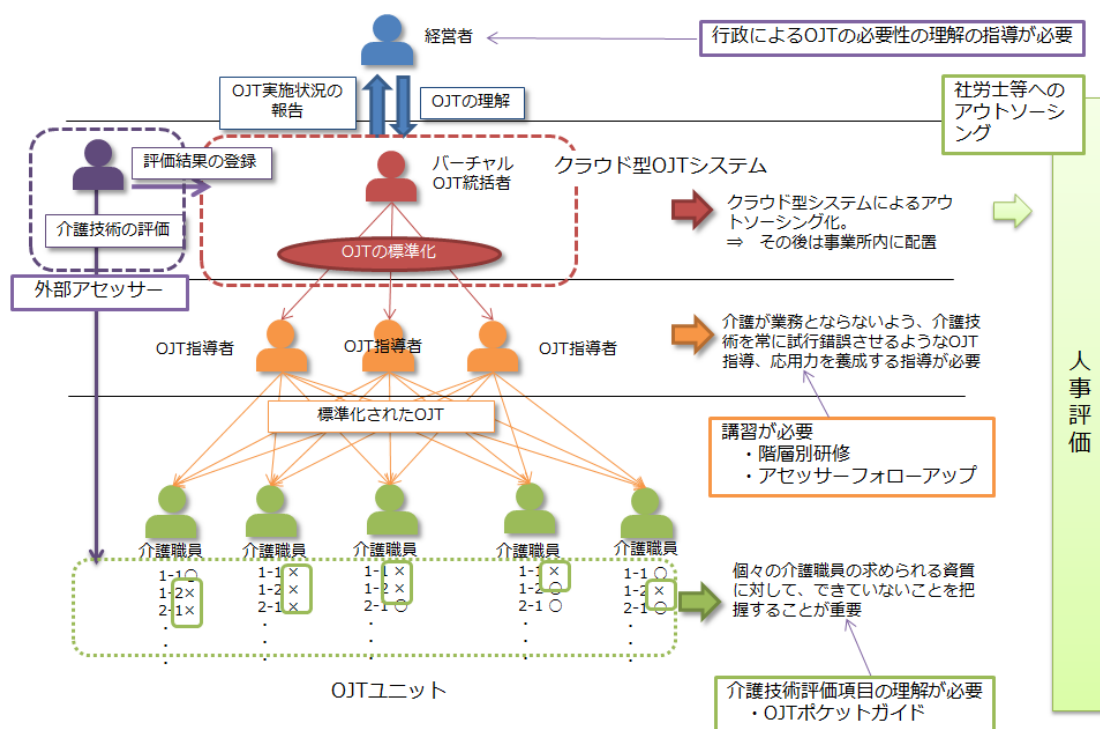
これらの検討結果において、OJT を通じた人材育成マネジメント標準化の為の要素として 2 つ挙げられる。1 つは期首評価のデータ分析により見えてきた、経験学習の機会の創出である。どの職員に介護現場においてどういった経験を積み重ね、OJT で学び実践力を高めていくか、ということである。

もう一つは OJT を通じた実践スキル習得システム構築による、OJT 人材育成データの集積と分析、OJT プロセスナレッジ・マネジメントであり、OJT のポートフォリオ化である。OJT プロセスをデータ化して如何にして効果的・効率的な人材育成の知を集積し活用していくか、ということである。

いずれにおいても、介護事業所においてどういった介護の実践スキルの習得、向上が必要であるか、また地域において、ひいては介護職全般において介護の実践スキルの実態把握データの蓄積が必要であり、そこで実践された OJT プロセスデータを集積・分析し、その結果を介護事業にフィードバックする仕組みを構築することで、OJT を通じた人材育成マネジメント標準化が実現可能になる、といえる。

(3)OJT を通じた人材育成マネジメント標準化支援(案)全体像

これらの検討結果を踏まえ、介護技術評価者のアウトソーシング化を検討した「外部アセッサーの設置、OJT 統括者のアウトソーシング化（クラウド型 OJT システム、OJT 指導の標準化を目的としたスーパーバイズの提供を含む）を含めた人材育成マネジメント標準化システムの構築案を以下の通り示す。



3. 介護分野に有効な OJT 実践に向けた教育プログラムの検討

(1) 経営管理における OJT の位置づけ : 経営者層

人材育成の意義や必要性を認識しつつも、その取組には、法人・事業所により格差があるのが実状である。事業所において、個々の職員が人材育成と OJT の意義と重要性を認識し、その取組に挑んでいても、法人・事業者、上司の取組への理解が得られない場合、継続的な取組につなげることは困難である。介護キャリア段位を用いた OJT の取組においても、経営者層が「取組の意義を理解していない」「仕組み・設計の本質を理解してもらえない」「理解が得られず、継続して実施する気力が持てない」といった回答があげられている（レベル認定申請時アセッサーアンケート結果）。

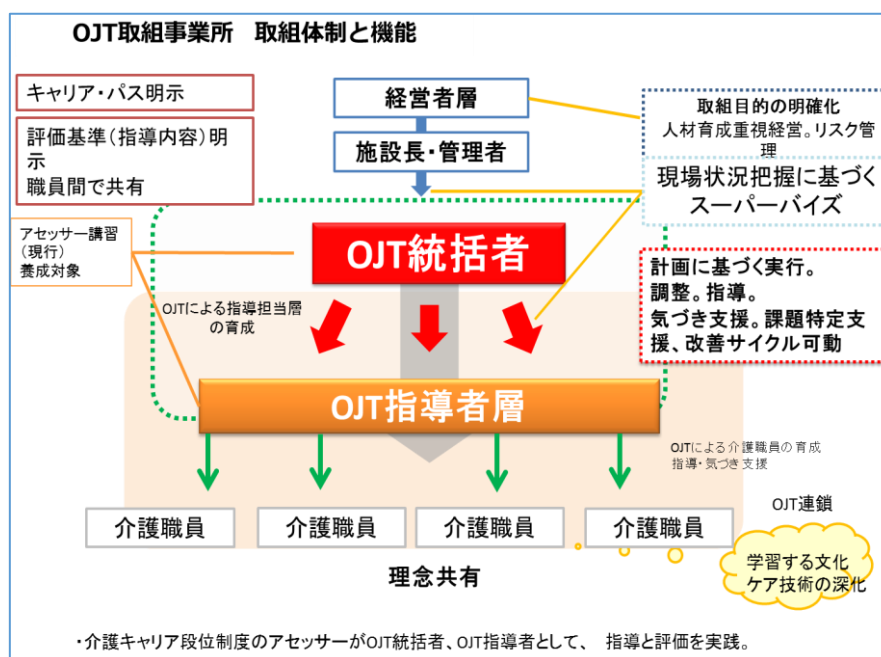
本事業においてヒアリング調査対象とした、OJT を仕組みとして取り込んでいる事業者・事業所においては、法人・事業所の将来を見据え、人材育成を重要な「経営戦略」として位置づけていることが共通している。

OJT を組織において、仕組みとして取り込み、PDCA サイクルを重視して、計画的、継続的に実行することは、人材の質確保につながるだけでなく、派生作用として、職場の気風作りにプラスに働くこと、専門性に裏付けられたケアの実践は、「リスク管理」であり、チームケアの実践は、「理念達成」につながる。ケアの質の維持確保は、法人・事業所のブランディングにつながり、地域社会において、競争優位性を示すことができること、OJT のシステム化、計画化、標準化は、組織力につながるものとして、「経営戦略としての人材育成」に取り組んでいる、といえる。

介護人材確保が喫緊の課題となる中で、「法人理念」の達成をめざし、介護保険制度や政策を先取りする形で「組織経営」を行っているか、あるいは将来を見据えた形で、戦略立てを行い、「組織経営」を行えているかどうかで、人材育成の位置づけ、OJT への取組姿勢は大きく異なってくる。

経営者層が、目の前の状況のみ注視し、「現状維持」や「思考停止」に陥っている場合は、経営者の「意識改革」と組織の「体質変換」が求められる。この点、今般、保険者機能強化推進の方策においても、介護人材の確保及び質の向上むけた、取組みや研修の計画、実施が促される中（平成 30 年度保険者機能強化推進交付金、評価基準）、このような、人材育成の取組を促すための、経営者層にむけた啓発は、地域における事業者の役割の追求とあわせて、行政主導（国・自治体）で実施していくことも求められているといえる。

ヒアリング事業者・事業所における OJT 取組体制は、以下のように、階層化した体制図で示することができるが、経営者層が、人材育成・OJT の推進の責任者として、「取組目的」、「理念」を明示し、事業所・施設内の仕組み作りができるように促し、施設長・管理者、OJT 統括者への権限委譲のもと、OJT 環境を整えることが重要といえる。



(2) 経営管理における OJT の位置づけ : 管理者・施設長、OJT 統括者層

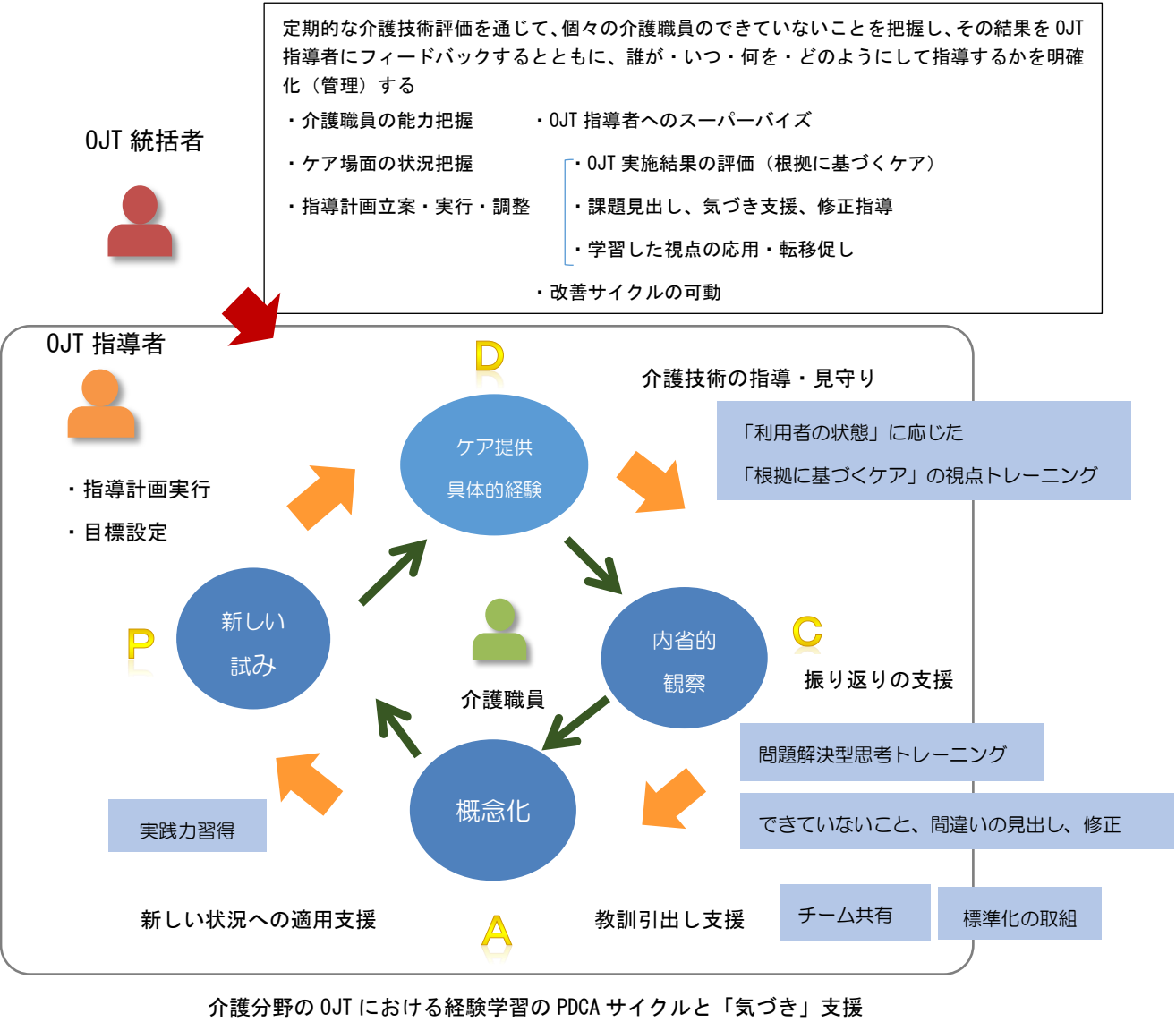
また、管理者・施設長、OJT 統括者においては、現場の職務遂行、人材育成に係るスーパーバイズが求められる。

ここでの OJT 統括者は、組織（事業所・施設）において人材育成の権限を委譲されている者であり、OJT マネジメントの実践者として位置づけられる。具体的には、個々の職員的能力把握、OJT 指導計画の立案、OJT 指導計画に基づく実行、調整、個々の OJT 指導者へのスーパーバイズを行いつつ、指導結果を確認し、課題点見出しの支援をし、次の改善サイクルへと展開させる、といった、事業所内の OJT 実行の PDCA サイクルを可動させるマネジメント業務が生じてくる。

このため、OJT 統括者には、事業所における OJT を通じた人材育成のビジョン設計ができること、個々の職員のケアの提供状況、実践状況を把握できること、前提として、介護現場にある介護マニュアルについて把握していること、根拠に基づく介護を理解し、介護技術の評価ができること、介護職員の間違った技術を見出し、根拠を持って説明、気づきを含めた指導ができること、そして、OJT 指導者の指導の仕方や方法についての確認も求められ、ヒアリング事例においても伺えたように、ケアの実践力の習得につなげるため、「経験学習」の PDCA サイクル（経験→省察→概念化→実践の可動）を意識した指導等、学習を促していく、OJT 指導スキルが求められる。

そして、これらの取組を通じて、職員の実践スキル習得にむけ、組織内の改善サイクルが機能するように、組織マネジメントを行う必要がある。

このように一連の人材マネジメント業務の対応は、ヒアリング事例においては、事業所の人材育成専任の者を配置しているケースや、主たる業務として人材育成を担当としている者が配置されているケースが確認された。



これらのマネジメントを職場で機能させるためには、OJT 指導の基本スキルの習得の上で、行うことが望ましく、ヒアリング事例においても、外部研修等と組み合わせ、ティーチング、コーチング、指示の仕方、アサーション、傾聴スキル、育成計画の立て方、面談の仕方、目標設定の仕方等、OJT の場で、「指導ができる者」となるよう、Off-JT を積極的に取り入れているケースが確認された。指導力養成に係るアプローチは多岐に渡るといえるが、OJT を組織に取り込むための方策に関しては、前述のような「支援ツール（OJT 実践スキル習得システム）」を活用によって、導入に係る準備、実施、継続、改善サイクルの取り入れといった、「システム導入」が可能になり、OJT ビルトインが可能になるもの、と期待される。

そこで、これらの層の OJT 実践にあたっては、「支援ツール（OJT 実践スキル習得システム）」の導入方法に関するガイドとして提示し、e ラーニング等、WEB 上での学習の場を提供し、現場の OJT 実践との往還研修とすることも、提案できる。

また、事業者・事業所における OJT 取り込み事例を研修等の場で紹介し、事業者・事業所の人材育成戦略、OJT の取り込み方、導入メリット、職員能力把握のメリット等、事例を通じたメッセージを伝え、導入のヒントとすることも有効と思われる。

OJT を通じた実践スキル習得システム導入ガイド(案)

1. 経営者・管理者への実践スキル向上の必要性の理解と OJT を通じた実践スキル習得システム構築方法の理解
2. 実践スキル OJT 統括者の任命・設置
3. 介護職員の実践スキル評価の実施
(実践スキルの現状把握と、できていないこと、間違っていることの見出し)
4. OJT 統括者による OJT 指導計画の立案
(OJT 指導者として誰が、介護職員の誰に対して、どの実践スキルを、いつ指導を行い、いつまでにできるようにするか)
5. OJT 指導計画の OJT 指導者への共有
(OJT 指導者への実践スキルの評価根拠と指導内容の共有)
6. OJT 統括者による OJT 指導者へのスーパーバイズ
7. OJT 統括者による OJT 実施結果の評価 (※ 3. リポート)
8. OJT 実施結果を踏まえた次期 OJT 指導計画の立案 (※ 4. リポート)

(3)OJT 統括者、OJT 指導者の養成

OJT 統括者やOJT 指導者として、実際に介護職員のOJTを実施する者の養成研修としては、介護キャリア段位制度のアセッサー養成講習が該当する。

アセッサー養成講習では、OJT ツールとしての制度枠組みの理解、OJT の意義、アセッサーの役割について伝えとともに、全国共通で活用可能な介護技術評価に係る基準（介護キャリア段位制度評価基準）の理解、事業所内でのOJT・評価の実施方法の理解に係る講義等の研修プログラムを、テキスト学習-eラーニング学習-トライアル評価-集合講習において、学習する設計となっている。

中でも、介護技術評価基準に照らして、客観的で公正な評価を行うための学習として、「利用者の状態」に即した「適切な介護技術」を提供できているか、適正かつ公正に評価することができるよう、講習では、他者のトライアル評価記録から、「評価の根拠」を読み取る演習を実施しており、アセッサーには、介護技術の適正さと実行の事実を評価し、被評価者に説明できるようにすることを求め、また実施した評価の適正性を第三者に示せるように記録に残すことを求めている。

すなわち、介護行為の意味するところ(評価項目の趣旨)を理解した上で、「利用者の状態像」に応じた「適切な介護技術」を提供できているかという、OJT の場面における指導・評価の視点のトレーニングを行う。

アセッサー養成講習の演習カリキュラム（現行 平成29年度演習より）

1. 入居説明		評価項目	評価方法	評価者	チェック日	評価	評価の根拠 (対応内容、記録等)
入居説明の準備が完了している							☒ バイタルサインの測定値を記録している ⇒ 測定値（血圧：110 / 60 mmHg）脈拍：55 回/分 体温：35.8℃ ☒ 記録表（別紙） ☒ 利用者への説明がわかり、体調確認・意向確認を行っている ⇒ 確認上の内容（気分不良の有無、入居意向） ☒ セラピー室の状況を確認し、体調確認・意向確認を行っている ⇒ 確認上の内容（気分不良の有無、入居意向） 評価・指導の記録 ☒ 指導事項に入居の可否判断を記録している ⇒ 指導事項（看察録） 可及利用の記録 ☒ 入居方法の判断を記録している ⇒ 入居方法（看察録）
バイタルサインの測定値を記録し、利用者への説明が完了している。体調確認・意向確認を行い、入居の可否について指導事項を記録している。							
バイタルサインの測定値を記録し、利用者への説明が完了している。体調確認・意向確認を行い、入居の可否について指導事項を記録している。							
自由記述欄							

利用者調査票

他者のトライアル評価記録から、「評価の根拠」を読み取る演習。
アセッサーには、介護技術の適正さと実行の事実を評価し、被評価者に説明できるようにすること、また実施した評価の適正性を第三者に示せるように記録に残すことを求める。

また、現認(目視評価)ではなく、記録等の確認で評価を行う項目の評価方法のトレーニングとして、評価根拠となる記録内容を整理し、「できている」との根拠として足りうるか、自己検証を行い、OJT の場面で、根拠に基づく評価の実践、また、根拠に基づくケアの実践指導ができるよう、トレーニングを行う。

【演習4(ヒヤリハットの視点を持っている)用 チェックシート】

(1) 所属する事業所の「ヒヤリハット等発生」に該当して以下の質問に答えてください。
 (2) 所属する事業所では、どのように事故報告とヒヤリハット報告を区別しているか、判断基準を記載してください。

ヒヤリハット発生 事故報告 ② 所属する事業所における、直近1年間のヒヤリハット報告件数を記載してください。 □ おおよそ()件程度 □ 件数はわからない	ヒヤリハットの発生 (あてはまるものに記) ☐ 転落 ☐ 転倒・滑倒 ☐ 突き刺さる ☐ 窒息・溺死 ☐ 火傷・凍傷 ☐ 中毒 ☐ 怪我・怪状 ☐ 突発的な出来事 ☐ その他() ☐ 転落 ☐ 転倒・滑倒 ☐ 突き刺さる ☐ 窒息・溺死 ☐ 火傷・凍傷 ☐ 中毒 ☐ 怪我・怪状 ☐ 突発的な出来事 ☐ その他()
--	---

③ どのようにヒヤリハットと区別したのか。(ヒヤリハット事例の概要)

発生場所	発生時刻	発生状況	発生原因	発生結果

④ どのようにヒヤリハットの要因分析を行い、対応策(予防策)を講じたのか。

発生場所	発生時刻	発生状況	発生原因	発生結果

⑤ どのように対応策を講じたのか。

発生場所	発生時刻	発生状況	発生原因	発生結果

**アセッサー養成講習演習カリキュラム
(現行 平成29年度演習より)**

題材

ヒヤリハットの視点を持っている

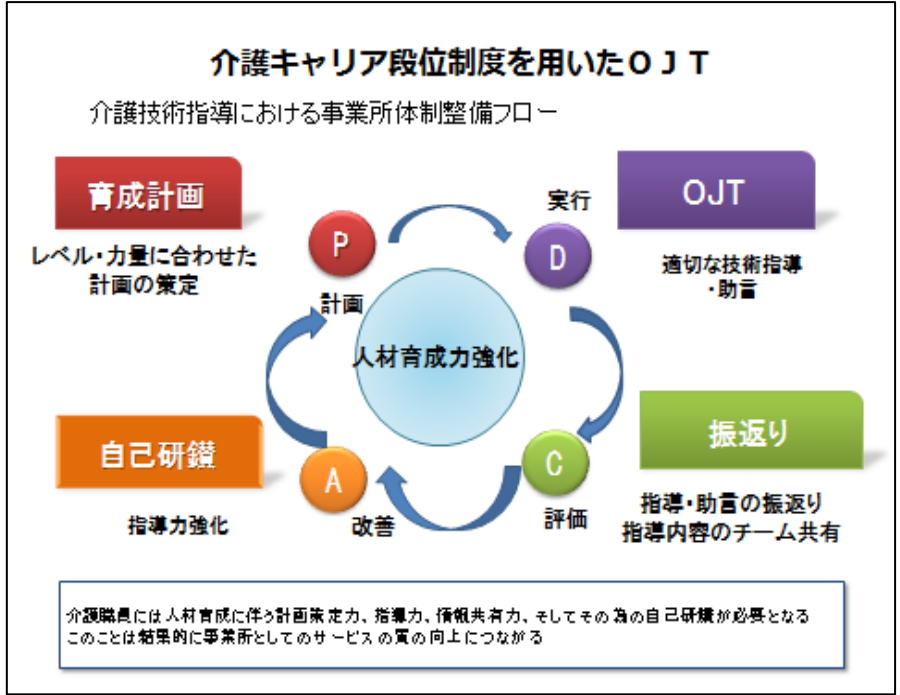
① 「事故には至らなかったがヒヤリとしたこと」「ハッとした気づき」を意識してとり上げ、記録に残すことができたか。

② ヒヤリハットの対応策(予防策)を講じることができたか。

③ 分析した情報について、事業所・施設内の会議で報告する等ケアチームで情報共有し、対応策を継続的に実践することができたか。

評価基準に照らして客観的で公正な評価を行うための学習

- 自事業所の「ヒヤリハット事例」を所定の様式に整理。
- 作業を通じて、「できる」の根拠、「できる」の取組を整理し、事実の整理、原因分析(C)、対応策(A)の視点を確認する演習。
- 指導・評価の場面で、「記録」から「評価の根拠」を読み取る力を養う。



事業所内のケアの標準化をはかり、チームケアを実現していくこと、事業所内の職員各自の努力が、暗黙知ではなく、「ナレッジ」として、組織に積みあがり、伝承されるためには、OJT 指導においても、ケアの指針（マニュアル、評価基準）に即し、「根拠に基づくケア」を実践していくことが求められる。「できる（実践的スキルあり）」のか、「できていない」のかの判断を、指導者側が我流を抛り所とするのではなく、「根拠」に基づき指導していくことで、ケアの標準化が実現するのであり、事業所にとっての PDCA プロセスの構築、その結果として、経験知の構築がはかられていくもの、といえよう。

指導・評価に際しては、「根拠」を見出す力として、指導側自身の「アセスメント力（アセスメントの視点）」が問われることになる。よって、OJT 統括・指導者側の研修としては、具体的な評価・指導の根拠記録を事例に、適切なケアといいきれんのか、課題解決視点、アセスメント視点を再確認する訓練等も、OJT を通じたスキル指導に資するもの、と提案できる。

また、OJT に際して、指導実践のスキルとして、モデリング、コーチング、スキャフォールディングの仕方を学ぶこと、また経験学習サイクルを可動させていくことのトレーニング&フェーディングにより、「指導者」としての資質を上げ、実際の OJT の場に活かしていくことが重要である。

OJT指導者向け研修 ⇒ 介護キャリア段位制度のアセッサーに対するフォローアップ研修案	
OJT取組事例 (個別内部評価事例)	介護キャリア段位の内部評価の実施の仕方 ・はじめ方 ・スケジュール調整 ・指導の仕方 ・評価の仕方 ・フィードバックの仕方 (気づきの支援) PDCAサイクルを意識したOJT指導 ・意見交換 (手順、やり方に関する疑問点の整理と、解決方法の見出し)
評価の視点の演習	レベル3認定指導事例を参考に作成(感染症対策、ヒヤリハット、事故発生防止、身体拘束廃止等) ・評価事例をもとに、課題解決視点、アセスメント力を再確認する。
持参した内部評価事例を用いた演習	内部評価票を用いた演習 他者交換の上、相互指摘。課題点の整理。 (根拠に基づくケア、評価の実施、評価結果の示し方) ・意見交換

OJT統括・OJT指導者・アセッサーフォローアップ研修案(例)		
認定審査時の審査視点データを活用し、記録から「できる(実践的スキル)あり」といえるかどうかを読み解く演習を行うことで、指導者の「アセスメント視点」の確認、業務の場(OJTの場面)での、適切な介護スキル指導の視点を磨く。		
II-3 感染症対策・衛生管理 1. 感染症予防対策ができる ④利用者に、どのような感染症の既往があるか確認できているか。		
事例 1	④感染症の既往がある方のリスト「感染症罹患患者」を事務所に張ってあり、常に確認ができるようになっており、介助に入る前に確認をしていた。	リストの掲示は適切か？利用者の目に触れないようにしているか。
II-4 事故発生防止 2 事故発生時の対応ができる ② 事故の再発予防策を講じることができたか。		
事例 2	【トイレでの転倒事故を受けての再発予防策】 ②トイレ使用時は車椅子を目の前に置き、バランスが崩れても支持物がある環境設定を行うこと、排泄時には、その場を離れてもスタッフが気付けるようタイマーをセットする対策を事故報告書に記載できていた。	・車いすを支持物とするのは、危険。車いすごと倒れる可能性がある。 ・転倒理由について分析した上で(例えば膝折れ等)、対応方法を検討しているか。
事例 3	【居室内で利用者が車いすに一人で移乗しようとして、ベット下に座り込んでいた事例の再発予防策】②食事前のトイレ誘導は行っていたが、食事後のトイレ誘導は行っていなかったため、必ずトイレの声掛けを行うことを対応策とした。ベット臥床時は細かく注意し監視を行っていくこととした。	・再発防止になっているか？ ・再発防止策として移乗の訓練を行っていたのか。
事例 4	【車いすのブレーキレバーが破損する事故の再発予防策】 ②当事者、介護主任、管理者が協議し、レンタル以外の古い車いすを利用している場合は金属疲労によるブレーキ破損のリスクが高いことを福祉用具貸与業者から情報収集し、延長ブレーキを使用しないという再発防止策を検討する事ができた。	車いすの延長ブレーキの破損に対して、「延長ブレーキを使用しない」ことが対応策では、違う事故を招くリスクがある。対応方法が不適切ではないか。
II-5 身体拘束廃止 2 身体拘束を行わざるを得ない場合の手続きができる ②緊急やむを得ず身体拘束を行わなければならない場合、その態様及び時間、その際の利用者の心身の状況、緊急やむを得なかった理由を記録したか。		
事例 5	【認知症があり、転倒リスク高く、車椅子安全ベルトを使用している事例。緊急やむを得なかった理由について】 ②ユニットスタッフ1名対応で、他入所者の排泄介助や、ナースコール対応等、本人の見守りで動けないことにより、他入所者のケアにも入れず、他入所者も事故等の恐れがあるため。	・身体拘束はユニットスタッフが1名だから、せざるを得ないのか。緊急やむを得ない理由として良いのか。

